YAMAHA SPORTS

XJR400/400R

サービスマニュアル

4HM4
4HM3

4HM-28197-06

4HM-075101～
4HM-050101～

はじめに

このサービスマニュアルは、ヤマハスポーツXJR400／400R（4HM4／4HM3）の変更点、仕様諸元、整備要領を記載しました。

ここに記載されていない内容については、すでに発行されていますヤマハスポーツXJR400サービスマニュアル（マニュアルNo.4HM-28197-00）を参照してください。

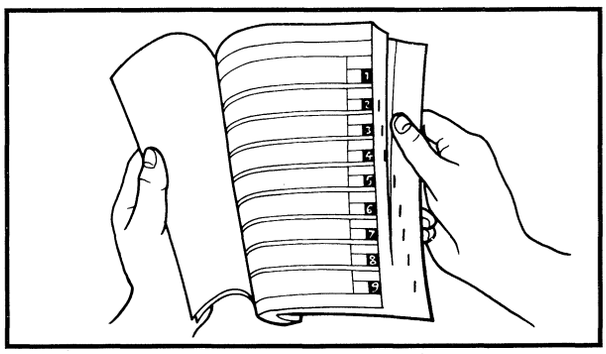
1995年2月

ヤマハ発動機株式会社

サービス情報室

- 速度警告灯装備車はメーカーオプション仕様です。
- 記載内容や仕様などは車両改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 仕様変更などにより写真や内容が一部実車と異なる場合があります。
- このサービスマニュアルはヤマハモーターサイクルの整備の基本的な知識や技能を有する人（販売店、整備業者）を対象として作成しています。
- 整備上の一般知識および技能のない人はこのサービスマニュアルだけで点検、調整、分解、組立等を行わないでください。
  整備上のトラブルおよび機械破損などの原因となる場合があります。

本書の使い方



記載項目の探し方

1. 本書の構成は、総説、サービスデータ、点検・調整、車体編の4章に分類して編集しています。
2. 目次を巻頭にまとめました。全体の構成がどのようになっているかを確かめて、必要とする章、項目を探します。

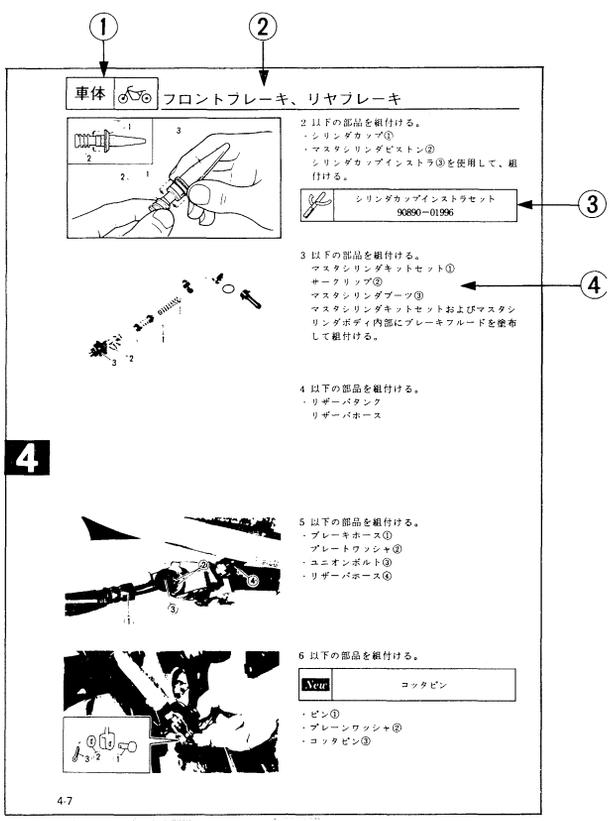
• 本の小口を斜めに曲げて、探そうとする章のシンボルマークに合わせて開き、ページ数で見たい項目、見たいところを探します。

記載内容の見方

1. 読む事項を少なくし、見て理解できるように写真、イラストを主体とした構成にしてあります。
2. 記載内容は機能別に章で区分けしてあります。

①は章タイトルを表わします。
②は項目を表わします。
③は数値、特殊工具等を表わします。
④は部品名称を取外し順又は、組付順に表わします。

3. 本書では正しい取扱いおよび点検整備に関する必要な事項を下記シンボルマークで表示しています。



⚠注意 **身体や生命に危害を及ぼすと予想される事故を未然に防ぐための必要な事項を示してあります。**

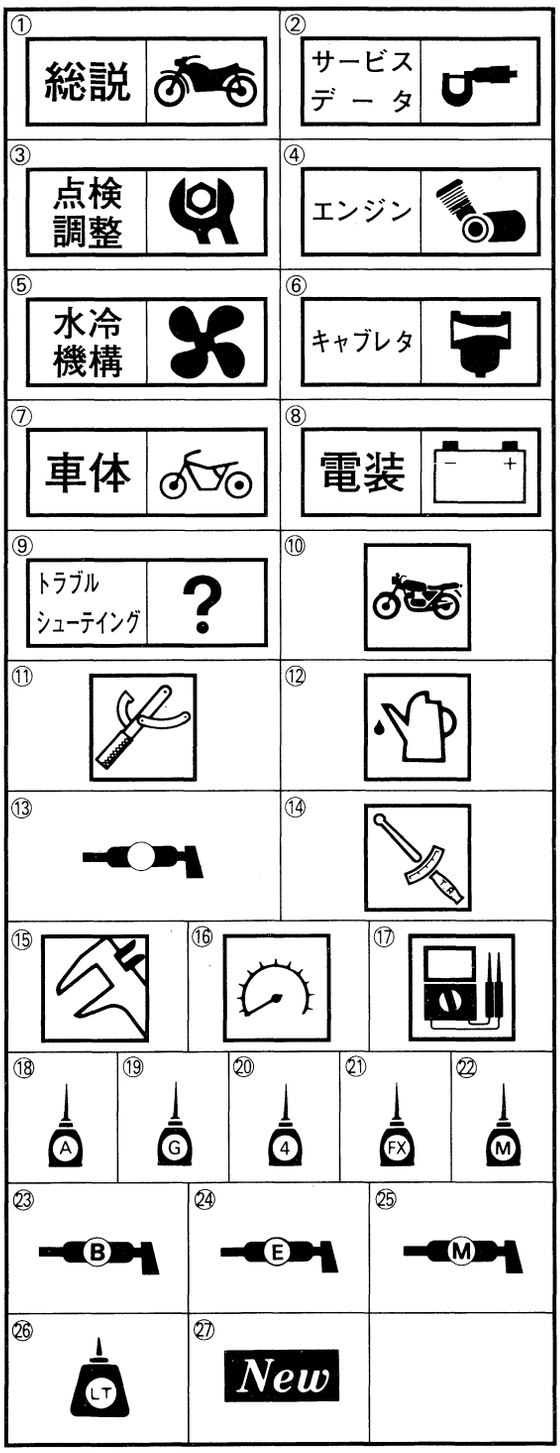
注　意 **部品や商品に損傷を与えないための必要な事項を示してあります。**

要　点 **正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。**

また、その他のシンボルマークの意味については次頁を参照してください。

シンボルマーク

シンボルマークは下記の意味、事項を示します。



①総説編
②サービスデータ編
③点検、調整編
④エンジン編
⑤水冷機構編
⑥キャブレタ編
⑦車体編
⑧電装編
⑨トラブルシューティング編

⑩エンジン車載整備ができる
⑪特殊工具
⑫オイル量およびオイルの種類
⑬グリースの種類
⑭締付トルク
⑮標準値および使用限度
⑯エンジン回転数
⑰Ω、V、Aの規定値

⑱ヤマハオートルーブスーパーオイル
⑲ヤマハギヤオイル
⑳ヤマハ4サイクルオイル
㉑ヤマハ4サイクルオイルFX
㉒二硫化モリブデンオイル
㉓ヤマハグリースB
㉔ヤマハグリースE
㉕ヤマハ二硫化モリブデングリース
㉖ネジロック
㉗組付時新品と交換する部品

目　次

§ 1 総説編　総説 1

§ 2 サービスデータ編　サービスデータ 2

§ 3 点検・調整編　点検・調整 3

§ 4 車体編　車体 4

目次

第１章　総説編

外観写真、車台番号打刻位置、原動機型式打刻位置 ……P1-1
特殊工具・機器 ……P1-2
国際単位系〔SI〕について ……P1-2

第２章　サービスデータ編

主要諸元 ……P2-1
整備諸元 ……P2-4
　エンジン ……P2-4
　車体 ……P2-8
　電装 ……P2-10
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図 ……P2-12

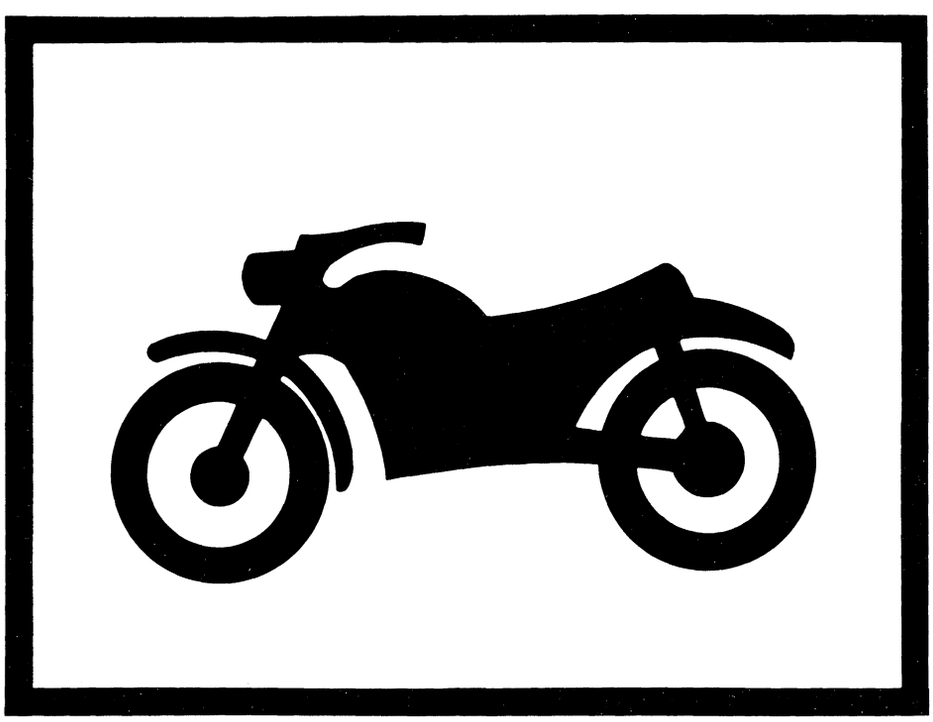
第３章　点検・調整編

車体 ……P3-1
　リヤクッション初期スプリング荷重の調整 ……P3-1

第４章　車体編

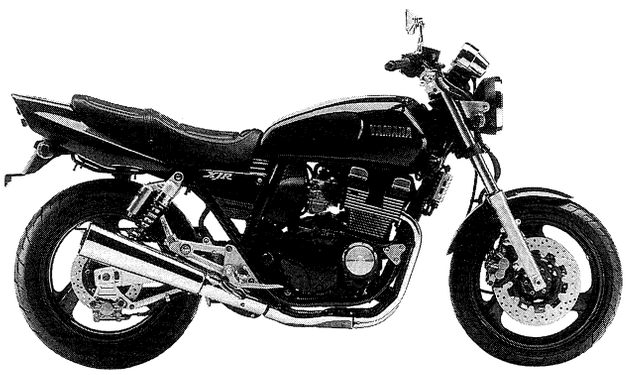
フロントブレーキ〔XJR400R〕 ……P4-1
　構成部品 ……P4-1
　ブレーキパッドの交換 ……P4-2
　キャリパの取外し ……P4-3
　キャリパの分解 ……P4-3
　キャリパの点検 ……P4-4
　キャリパの組立 ……P4-4
　キャリパの組付け ……P4-5
フロントフォーク ……P4-6
　構成部品 ……P4-6
　フロントフォークの分解 ……P4-7
　フロントフォークの組立 ……P4-8
XJR400/400R電装結線図

第１章
総　説　編



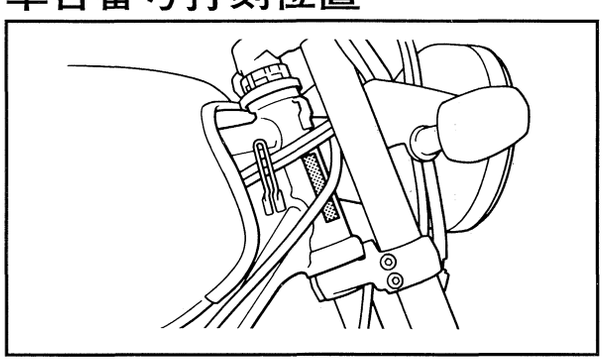
外観写真

XJR400

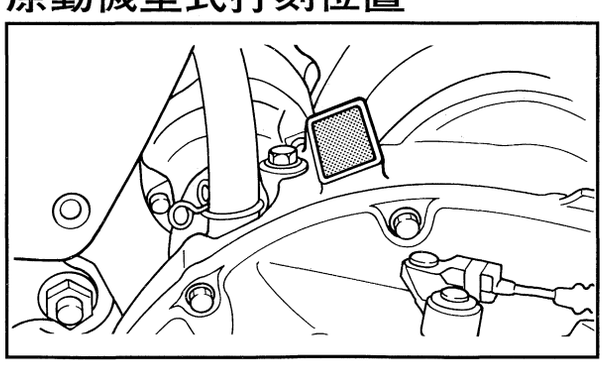


XJR400R

車台番号打刻位置

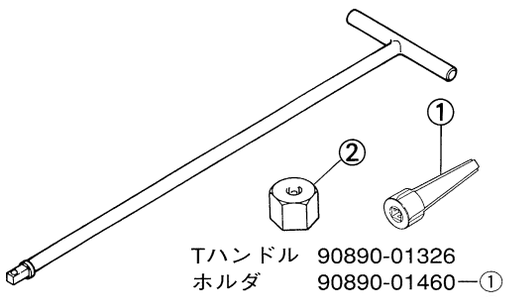
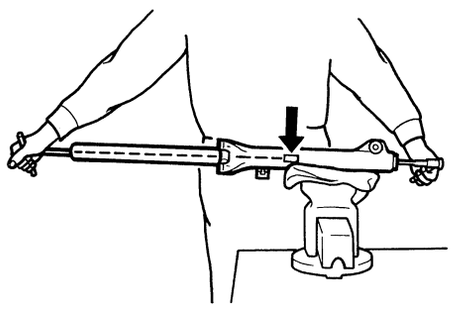
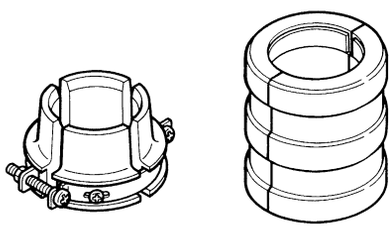
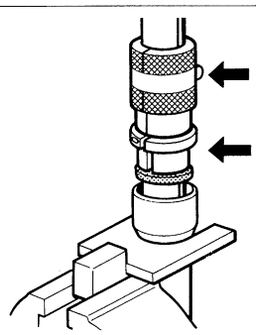


原動機型式打刻位置



営業呼称	XJR400〔XJR400R〕
通称名	XJR400〔XJR400R〕
車名・型式	ヤマハ・4HM
工場呼称	XJR400BJ5〔XJR400AJR5〕
機種コード	4HM4〔4HM3〕
指定番号	7264
原動機型式	4HM
車台打刻開始番号	4HM-075101～〔4HM-050101～〕
全長	2075mm
全幅	735mm
全高	1080mm
総排気量	0.399L（399cm³）
車両重量	198kg
カラーリング	ブラック2 ディープレッドカクテル2（XJR400） ブルーイッシュホワイトカクテル1（XJR400R）

特殊工具・機器

名　　称	使用方法例	備　考
 Tハンドル　90890-01326 ホルダ　90890-01460—① 90890-01432—②		①XJR400用 ②XJR400R用
 フォークシールドライバ 90890-01442		

国際単位系〔SI〕について

1. 国際単位系〔SI〕とは

現在、私達が一般に使用している単位は重力単位系と呼ばれるものです。重力単位系もSIもメートル法の中の単位系ですので基本的には長さを「メートル」、時間を「秒」、質量を「キログラム」という単位で表現しています。

重力単位系とSIの根本的な相違点は「質量」の単位と「力」の単位を明確に区別しているところにあります。

さらに「力」の単位が変わることで、関連した「量」(エネルギー等)の単位も変っています。

SIとはフランス語の国際単位系（Le systém International d' Unités）という意味の略称です。

2. サービスマニュアルへのSI記載例

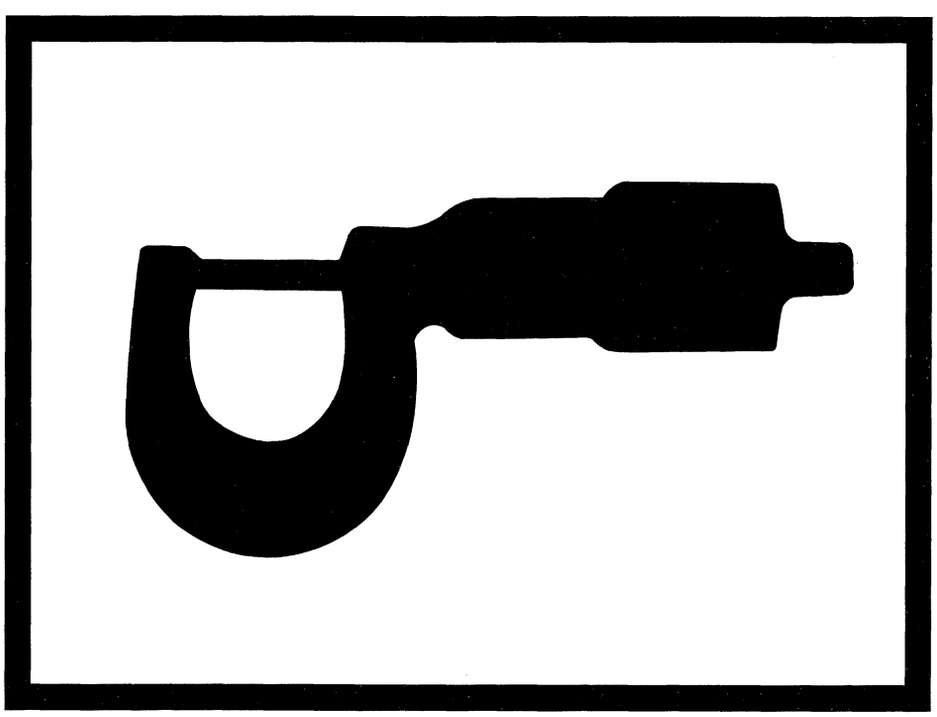
このサービスマニュアルではSIと従来単位を併記して記載しています。

〔例〕締付トルク　　10Nm（1.0kg・m）

主な記載例

項　　目	SI（従来単位）
容量または排気量	1L (1000cm³)
圧力	1kPa (0.01kg／cm²)
出力	1kW (1.360PS)
トルク	1Nm (0.1kg・m)

第２章
サービスデータ編



主要諸元

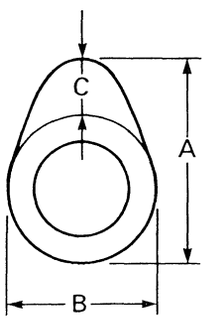
営業呼称	XJR400〔XJR400R〕
機種コード	4HM4〔4HM3〕
原動機打刻型式	4HM
車体打刻開始番号	4HM-075101〔4HM-050101〕
車名・型式	ヤマハ・4HM
指定番号	7264
発売年・月	1995年3月
寸法：	
全長	2,075mm
全巾	735mm
全高	1,080mm
シート高	770mm
軸間距離	1,435mm
最低地上高	115mm
重量：	
乾燥重量	178kg
車両重量	198kg
分布重量　（前）	98kg
（後）	100kg
車両総重量	308kg
分布重量　（前）	119kg
（後）	189kg
乗車定員	2名
性能：	
定地燃費	41km/L／60km/h
最小回転半径	2,800mm
制動停止距離	14m／50km/h
原動機：	
原動機種類	4サイクル　空冷　DOHC
気筒数配列	前傾並列4気筒
総排気量	0.399L（399cm³）
内径×行程	55×42mm
圧縮比	10.7：1
圧縮圧力	1100kPa（11kg/cm²）／400r/min
最高出力	39.0kW（53PS）／11,000r/min
最大トルク	36Nm（3.6kg・m）／9,500r/min
始動方式	セル式
エアクリーナ形式	乾式不織布
クラッチ形式	湿式多板

潤滑方式	ウエットサンプ
エンジンオイル	
オイル量	2L
オイルフィルタ交換時	2.4L
オーバホール時	2.8L
指定オイル	ヤマハ4サイクルオイルエフェロG. Z. X
トランスミッション：	
1次減速比	23/24×68/25（2.606）
2次減速比	45/15（3.000）
ミッション・チェンジ方式	常時かみ合式　6速
減速比　1速	41/15（2.733）
2速	37/19（1.947）
3速	34/22（1.545）
4速	31/25（1.240）
5速	29/27（1.074）
6速	27/29（0.931）
車体：	
フレーム型式	ダブルクレードル
キャスタ	26°
トレール	99mm
燃料：	
フュエルタンク容量	18L
予備容量	3L
タイヤ：	
種類	チューブレス
タイヤサイズ　（前）	110/70-17　54H
（後）	150/70-17　69H
タイヤメーカ　（前）	ダンロップ/ブリヂストン
（後）	ダンロップ/ブリヂストン
タイヤ銘柄　（前）	K505FL/G601
（後）	K505P/G602
残溝使用限度　（前）	0.8mm
（後）	0.8mm
残溝使用限度　（高速）	1.6mm
タイヤ空気圧：	
1名乗車（前）	200kPa（2kg/cm²）
（後）	225kPa（2.25kg/cm²）
2名乗車（前）	200kPa（2kg/cm²）
（後）	250kPa（2.5kg/cm²）

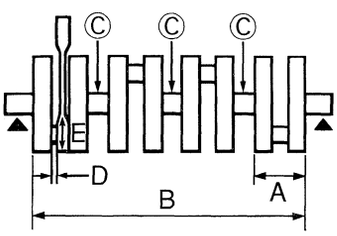
高速走行（1名乗車）（前）	200kPa（2kg/cm²）
（後）	250kPa（2.5kg/cm²）
ブレーキ：	
前輪ブレーキ形式	油圧式ダブルディスクブレーキ
後輪ブレーキ形式	油圧式シングルディスクブレーキ
懸架方式：	
フロントサスペンション	テレスコピック
リヤサスペンション	スイングアーム
緩衝方式：	
フロントショックアブソーバ	コイルエアスプリング/オイルダンパ
リヤショックアブソーバ	コイル,エアスプリング/ガス,オイルダンパ
ホイールトラベル：	
フロントホイールトラベル	130mm
リヤホイールトラベル	110mm
エレクトリカル：	
点火方式	フルトランジスタ式（デジタル進角）
スパークプラグ：	
型式	CR9E/U27ESR-N
メーカ	NGK/NIPPONDENSO
プラグギャップ	0.7～0.8mm
ヘッドランプ形式：	ハロゲンランプ
バルブワット数×個数：	
ヘッドランプ	12V60W/55W
テール/ストップランプ	12V5W/21W
フラッシャランプ	12V21W×4
メータランプ	12V1.7W×4
ライセンス灯	12V5W×2
パイロットランプワット数×個数：	
ニュートラル	12V1.7W×1
フラッシャ	12V1.7W×1
オイル残量警告灯	12V3.4W×1
ハイビーム	12V3.4W×1
速度警告灯	12V3.4W×1

整備諸元

エンジン

シリンダヘッド：	
歪み限度	0.05mm
シリンダ：	
内径	55.005～55.045mm
使用限度	55.1mm
シリンダ歪み限度	0.03mm
カム寸法： 	
吸気カム“A”	32.4～32.5mm
使用限度	32.3mm
吸気カム“B”	25.019～25.029mm
使用限度	24.92mm
最大リフト（IN）	7.2mm
排気カム“A”	32.044～32.054mm
使用限度	31.95mm
排気カム“B”	25.019～25.029mm
使用限度	24.92mm
最大リフト（EX）	6.8mm
カムシャフト振れ限度	0.05mm
バルブタイミング：	
吸気開き（B. T. D. C）	34°
吸気閉じ（A. B. D. C）	54°
排気開き（B. B. D. C）	55°
排気閉じ（A. T. D. C）	25°
オーバラップ	59°
カムチェン：	
カムチェン型式/駒数	82-RH2010/144
動弁機構：	
バルブクリアランス（冷間）（IN）	0.11～0.20mm
（EX）	0.21～0.30mm
バルブステム外径　（IN）	3.975～3.990mm
（EX）	3.960～3.975mm
使用限度　（IN）	3.945mm

(EX)	3.93mm
ガイド内径 (IN)	4.000～4.012mm
(EX)	4.000～4.012mm
使用限度 (IN)	4.045mm
(EX)	4.02mm
ステムとガイドのすき間 (IN)	0.010～0.037mm
(EX)	0.025～0.052mm
使用限度 (IN)	0.1mm
(EX)	0.1mm
バルブステム振れ限度	0.03mm
バルブシート当り巾 (IN)	0.9～1.1mm
(EX)	0.9～1.1mm
使用限度 (IN)	2mm
(EX)	2mm
バルブリフタ外径 (IN/EX)	19.976～20.000mm
使用限度 (IN/EX)	19.956mm
バルブリフタ孔径 (IN/EX)	19.996～20.020mm
使用限度 (IN/EX)	20.05mm
バルブスプリング：	
自由長 (IN)	42.6mm
(EX)	42.6mm
使用限度 (IN)	40mm
(EX)	40mm
たおれ角使用限度 (IN)	2.5°/1.9mm
(EX)	2.5°/1.9mm
ピストン：	
ピストンクリアランス	0.025～0.045mm
ピストン外径	54.7～54.9mm
測定位置“H”	3mm
組付方向	▲排気側
ピストンピン孔内径	15.002～15.013mm
使用限度	15.04mm
ピストンピン外径	14.995～15.000mm
使用限度	14.975mm
ピストンリング：	
トップリング	
形状	バレル
合口すき間 (取付時)	0.1～0.2mm
使用限度	0.6mm

サイドクリアランス（取付時）	0.03～0.07mm
使用限度	0.1mm
セカンドリング	
形状	テーパ
合口すき間（取付時）	0.15～0.35mm
使用限度	0.6mm
サイドクリアランス	0.02～0.06mm
使用限度	0.1mm
オイルリング	
合口すき間（取付時）	0.2～0.7mm
コネクティングロッド：	
オイルクリアランス	0.026～0.060mm
使用限度	0.08mm
クランクシャフト： 	
クランク巾“A”	48.6～50.2mm
クランク巾“B”	311.8～313.0mm
振れ限度“C”	0.03mm
大端部サイドクリアランス“D”	0.160～0.262mm
大端部ラジアルクリアランス“E”	0.026～0.060mm
ジャーナルオイルクリアランス	0.014～0.053mm
使用限度	0.08mm
クラッチ：	
フリクションプレート厚さ	2.9～3.1mm
枚数	8枚
使用限度	2.7mm
クラッチプレート厚さ	1.5～1.7mm
枚数	7枚
歪み限度	0.15mm
クラッチスプリング自由長	36.4mm
本数	5本
使用限度	35.4mm
プッシュロッド曲り使用限度	0.3mm

トランスミッション：	
メインアクスル組立巾	116.3～116.5mm
キャブレタ：	
型式/数量	BS30/4
刻印	4HM　10
メインジェット	＃90
メインエアジェット	＃120
ジェットニードル・クリップ段数	4CL22・3/5
メインノズル	0-2
パイロットエアジェット1	＃130
パイロットアウトレット	0.8
パイロットジェット	＃12.5
パイロットスクリュ戻し回数	2
スタータジェット1	＃20
スタータジェット2	0.7
油面（スペシャルツール使用）	8mm
アイドリング回転数	1,250～1,350r/min
CO濃度	4.5～5.5%
吸入負圧	190～210mmHg
オイル温度	75～85℃
オイルポンプ：	
オイルポンプ型式	トロコイドポンプ
インナロータとアウタロータのすき間	0.09～0.15mm
使用限度	0.2mm
アウタロータとロータハウジングのすき間	0.03～0.08mm
使用限度	0.15mm
ロータハウジング端面とロータ端面のすき間	0.03～0.08mm
使用限度	0.15mm
バイパスバルブ作動油圧	80～120kPa (0.8～1.2kg/cm²)
標準油圧	80kPa (0.8kg/cm²) ／1,300r/min

車体

ステアリングシステム：	
ステアリングベアリング形式	ボールベアリング
ボールの数/サイズ	
（上側）	14個
（下側）	14個
ハンドル切れ角（左）	35°
ハンドル切れ角（右）	35°
フロントフォーク：	
フロントフォークトラベル	130mm
フォークスプリング自由長	398.2mm〔393.5mm〕
使用限度	390mm〔385mm〕
オイル量	426cm³〔450cm³〕
オイルレベル	173mm〔148mm〕
指定オイル	ヤマハサスペンションオイルG10
インナチューブ外径	41mm
インナチューブ曲り限度	0.2mm
リヤクッション：	
クッションストローク	82.5mm〔88mm〕
取付長	191.4mm〔190mm〕
フロントホイール：	
リムサイズ	17×MT3.00
リム縦振れ限度	2mm
リム横振れ限度	2mm
ホイールアクスルの曲り限度	0.25mm
リヤホイール：	
リムサイズ	17×MT4.00
リム縦振れ限度	2mm
リム横振れ限度	2mm
ホイールアクスルの曲り限度	0.25mm
ドライブチェン：	
規格/メーカ	520VL2/DAIDO
駒数	110
たわみ量	30～40mm
10リンク伸び使用限度	151mm
フロントディスクブレーキ：	
ディスク外径×厚さ	298×4mm
ディスク厚さ使用限度	3.5mm
ディスクの振れ使用限度	0.5mm
パッド厚さ-内側	6.2mm〔5.5mm〕

使用限度	0.8mm〔0.5mm〕
パッド厚さ-外側	6.2mm〔5.5mm〕
使用限度	0.8mm〔0.5mm〕
指定ブレーキフルード	DOT＃4
リヤディスクブレーキ：	
ディスク外径×厚さ	245×5mm
ディスク厚さ使用限度	4.5mm
ディスクの振れ限度	0.5mm
パッド厚さ-内側	5.5mm
使用限度	0.5mm
パッド厚さ-外側	5.5mm
使用限度	0.5mm
指定ブレーキフルード	DOT＃4
ケーブル類とブレーキペダル：	
ブレーキペダル位置	50mm
クラッチレバー先端部の遊び	10～15mm
スロットルケーブル遊び	3～5mm

電装

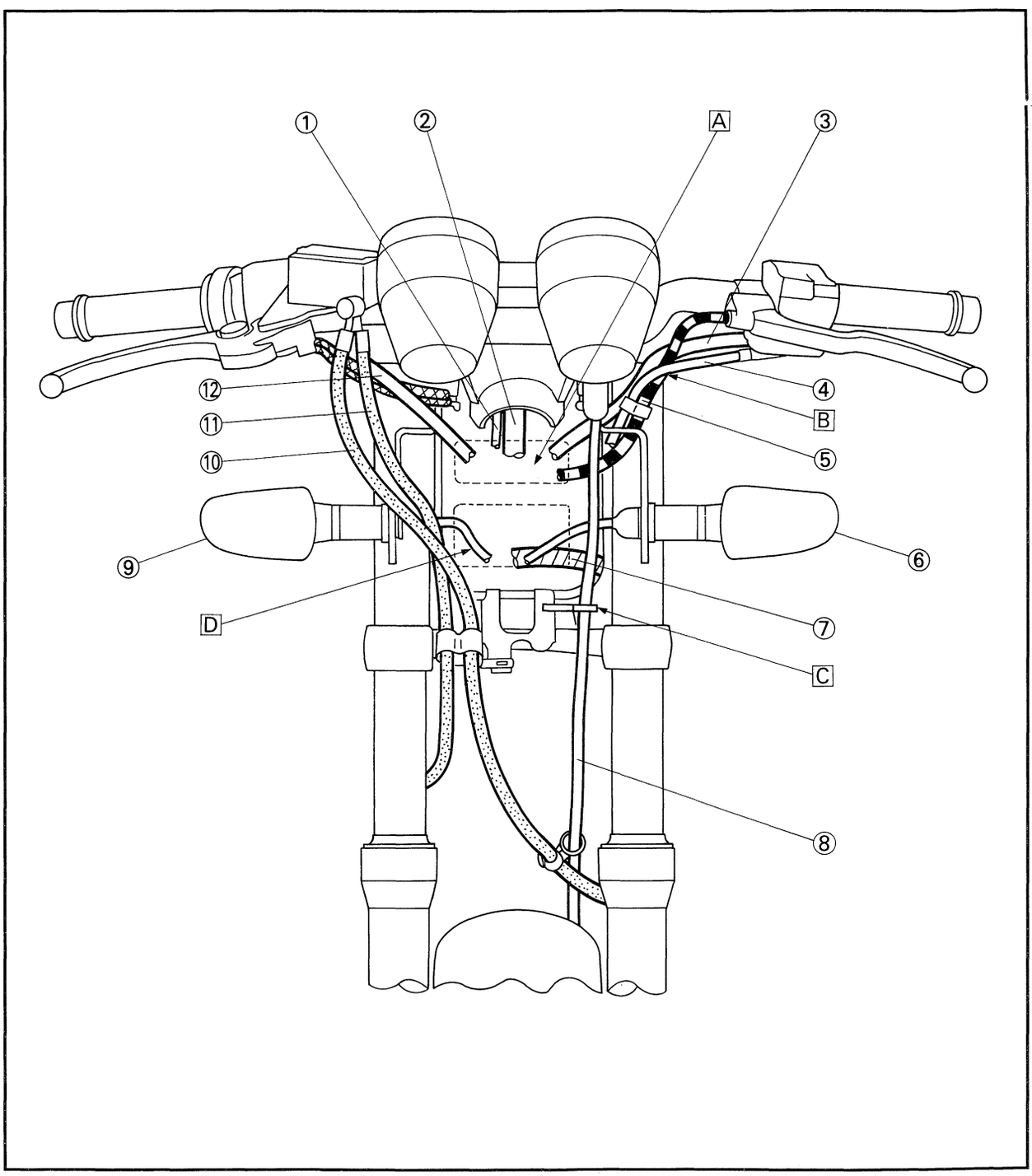
点火タイミング：	
点火時期（B.T.D.C）	10°／1,300r/min
進角後点火時期	50°／6,000r/min
進角装置	電気式
フルトランジスタ：	
ピックアップコイル抵抗値/線色	304～456Ω　白/赤-白/緑
イグナイタユニット型式/メーカ	4HM-10/YAMAHA
イグニッションコイル：	
型式/メーカ	83R/YAMAHA
火花性能	6mm
一次巻線抵抗値	1.92～2.88Ω
二次巻線抵抗値	9.52～14.28kΩ
A.Cマグネトゼネレータ	
型式/メーカ	F4HM/ヤマハ
公称出力	12V19A／5,000r/min
ステータコイル抵抗値/線色	0.32～0.48Ω　白-白
レクチファイヤレギュレタ：	
型式/メーカ	SH640/SINDENGEN
無負荷調整電圧	14.3～15.3V
バッテリ：	
バッテリ型式	GTX9-BS/YTX9-BS
バッテリ容量	12V8AH
充電電流×時間・標準	0.8A×5時間
・急速	8A×30分
充電完了電圧値	12.8V
スターティングモータ：	
型式/メーカ	SM-13/MITSUBA
作動電圧	12V
出力	0.7kW
アマチュアコイル抵抗値	0.15～0.25Ω
ブラシ全長	12.5mm
減寸限度	4mm
ブラシ使用個数	2個
スプリング圧	570～920g
コンミュテータ外径	28mm
使用限度	27mm
マイカアンダカット量（深）	0.7mm
スタータリレー：	
型式/メーカ	MS5F/JIDECO

定格電流	100A
巻線抵抗値	4.2～4.6Ω
吸引電圧	8V
ホーン：	
型式/メーカ	YF-12/NIKKO
最大電流	2.5A
性能	105～120dB/2m
巻線抵抗値	1.23～1.25Ω
フラッシャリレー：	
タイプ	セミトランジスタ型
型式/メーカ	FE246BH/NIPPONDENSO
点滅回数	60～120回/分
オイルレベルスイッチ：	
型式/メーカ	4H7/NIPPONDENSO
フュエルゲージ：	
型式/メーカ	4HM/NIHON SEIKI
センダユニット抵抗値	4～10Ω
スタータサーキットカットオフリレー：	
型式/メーカ	4HM/OMRON
巻線抵抗値	202.5～247.5Ω
サーキットブレーカ：	
タイプ	ヒューズ
メイン	30A/1個
ヘッドライト回路	15A/1個
シグナル回路	15A/1個
イグニッション回路	7.5A/1個
予備	15A/1個
	7.5A/1個
	30A/1個

ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

①メインスイッチリード線
②メータリード線
③ハンドルスイッチ(左)リード線
④スタータケーブル
⑤クラッチケーブル
⑥フロントフラッシャランプ(左)
⑦ワイヤハーネス
⑧スピードメータケーブル
⑨フロントフラッシャランプ(右)
⑩ブレーキホース1
⑪ブレーキホース2
⑫ハンドルスイッチ(右)リード線

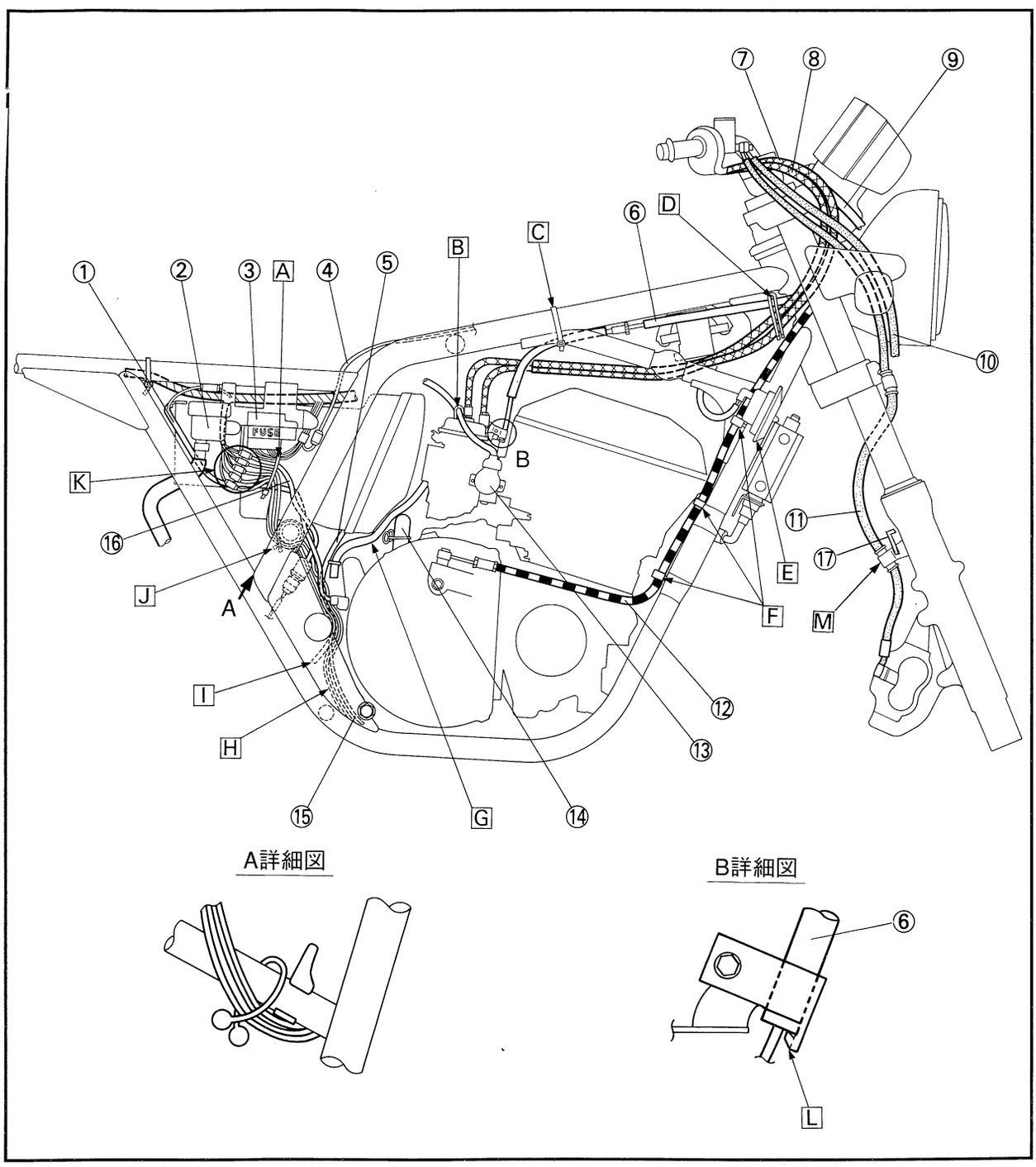
Ⓐハンドルスイッチ(左)リード線、ハンドルスイッチ(右)リード線、メインスイッチリード線およびメータリード線をヘッドライトボディ上孔に入れる。
Ⓑハンドルスイッチ(左)リード線はクラッチケーブルの内側を通す。たるみがないようにヘッドライトボディ内で調整すること。
Ⓒスピードメータケーブルをケーブルガイドに通す。
Ⓓフロントフラッシャ(左)リード線、フロントフラッシャ(右)リード線およびワイヤハーネスをヘッドライトボディ下孔にいれる。ワイヤハーネスを中心に他のリード線が絡まないように通すこと。



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

①バッテリ(−)リード線
②リザーバタンク
③ヒューズボックス
④フュエルセンダリード線
⑤フラップ
⑥スタータケーブル
⑦スロットルケーブル1
⑧スロットルケーブル2
⑨ハンドルスイッチ(右)リード線
⑩ブレーキホース1
⑪ブレーキホース2
⑫クラッチケーブル
⑬スロットルポジションセンサ
⑭ブローバイガス還元ホース
⑮サイドスタンドスイッチリード線
⑯リヤストップスイッチリード線
⑰ケーブルガイド

Ⓐヒューズボックスリード線、リヤストップスイッチリード線、A.Cマグネトリード線、ピックアップコイルリード線、ニュートラルスイッチ／オイルレベルスイッチリード線およびバッテリ(−)リード線をバンドで束ねる。バンド先端は下に向ける。
Ⓑスロットルポジションセンサリード線をキャブレタブラケットのクランプに固定する。
Ⓒスタータケーブルをクランプでテンションパイプに固定する。
Ⓓスタータケーブル、スロットルケーブル1、2をケーブルホルダに通す。
Ⓔホーンは端子を車体内側へ向けて組付ける。
Ⓕクラッチケーブルをクリップでフレームに固定する。
Ⓖキャブレタブリーザパイプはエアクリーナケースとブローバイガス還元ホースの間を通し、フラップのクランプに差し込む。



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

H A.Cマグネトリード線、ピックアップコイルリード線およびニュートラルスイッチ／オイルレベルスイッチリード線はリヤアームヘッドパイプの上を通した後、エンジンマウントボルト(下)より上を通して車体左側へ。
サイドスタンドスイッチリード線はリヤアームヘッドパイプの上を通した後、エンジンマウントボルト(下)とクロスチューブの間を通して車体左側へ。

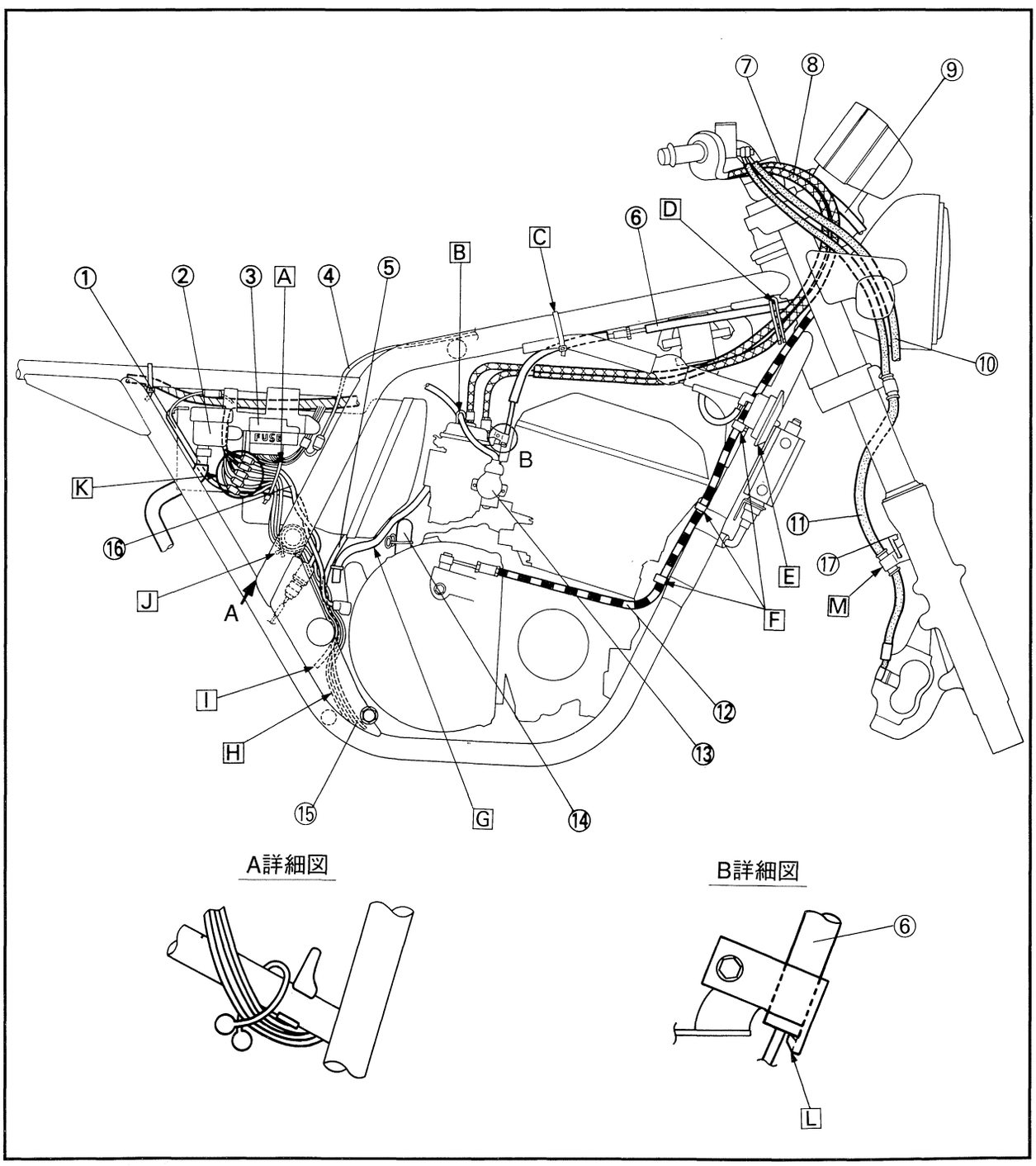
I フラップはリヤアームの前側にたるみがないように垂らすこと。

J バッテリ(−)リード線とリヤストップスイッチリード線はクロスパイプの上を通す。サイドスタンドスイッチリード線、A.Cマグネトリード線、ピックアップコイルリード線およびニュートラルスイッチ／オイルレベルスイッチリード線はクロスパイプの下を通し、エンジンブラケット内側でクロスパイプにクランプで固定する。(A詳細図参照)

K リヤストップスイッチリード線、サイドスタンドスイッチリード線、A.Cマグネトリード線、ピックアップコイルリード線およびニュートラルスイッチ／オイルレベルスイッチリード線を結線する。

L スタータケーブルはキャブレタブラケットのストッパに突き当てて固定する。

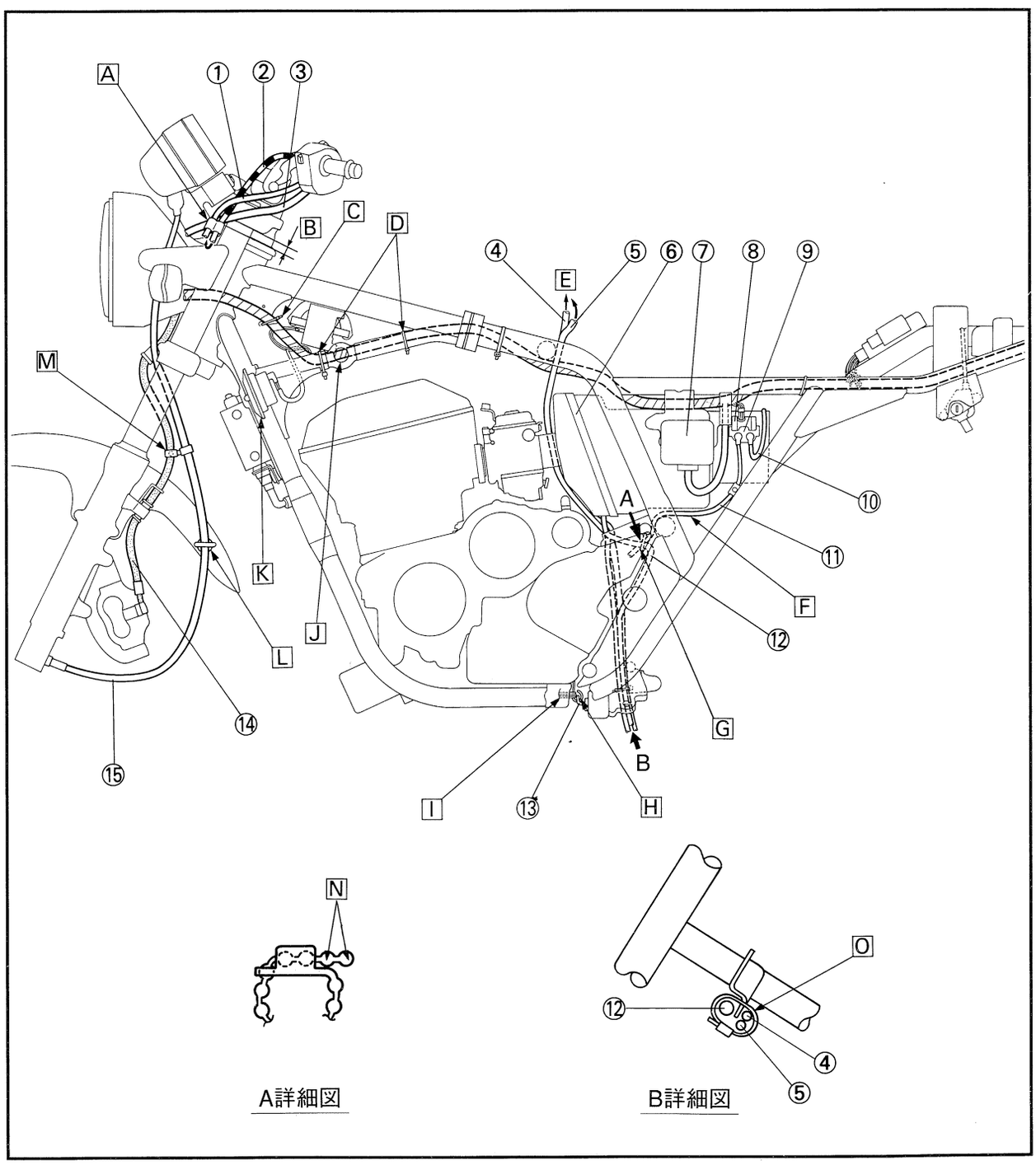
M ブレーキホース2はケーブルガイドの後ろ側を通すこと。



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

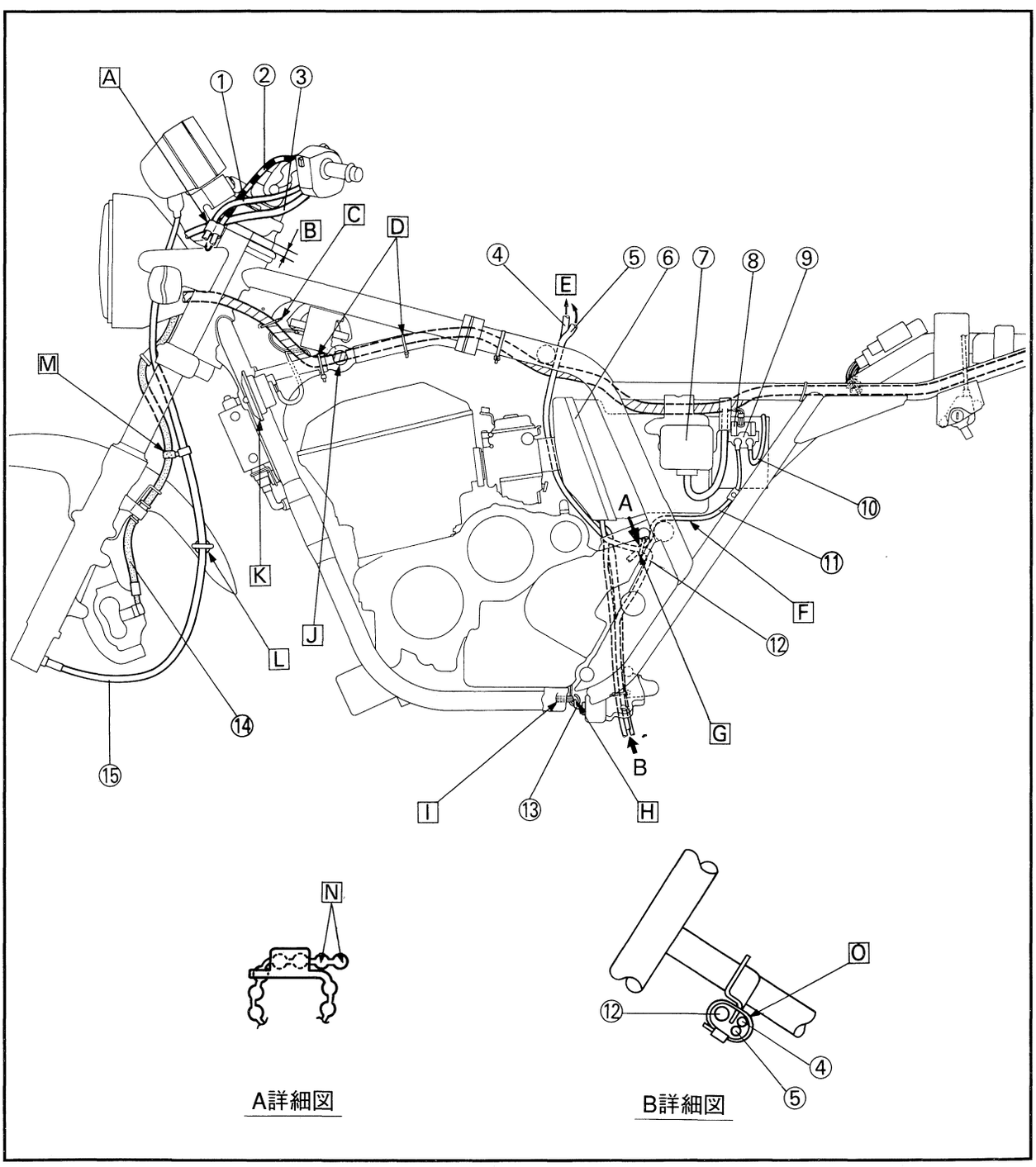
①スタータケーブル
②クラッチケーブル
③ハンドルスイッチ(左)リード線
④フュエルタンクブリーザパイプ
⑤フュエルタンクオーバフローパイプ
⑥エアクリーナケース
⑦レクチファイヤレギュレタ
⑧ヒューズ(メイン)
⑨スタータリレー
⑩バッテリ(十)リード線
⑪スターティングモータ(十)リード線
⑫エアクリーナケースドレンホース
⑬サイドスタンドスイッチリード線
⑭ブレーキホース1
⑮スピードメータケーブル

ⒶクラッチケーブルとスタータケーブルをメータAss'yの下でクランプする。
Ⓑ10～20 mm
Ⓒバンドをガセット下孔に通してワイヤハーネスを固定する。バンド先端は車体内側へ向ける。
Ⓓワイヤハーネスをクランプでテンションパイプに固定する。クランプ先端は下に向ける。
Ⓔフュエルタンクブリーザパイプ、フュエルタンクオーバフローパイプはクロスチューブの後ろを通し、それぞれフュエルタンクのパイプジョイント(右、左)へ差し込む。
Ⓕスターティングモータ(十)リード線はクロスパイプの上を通す。
Ⓖエアクリーナケースドレンホースとスターティングモータ(十)リード線をエンジンブラケットにクランプで固定する。エアクリーナケースドレンホースが車体外側となるように通す。
Ⓗサイドスタンドスイッチリード線、A.Cマグネトリード線、ピックアップコイルリード線およびニュートラルスイッチ／オイルレベルスイッチリード線をエンジン中央のクランプに通す。



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

Ⓘ A.Cマグネトリード線、ピックアップコイルリード線、ニュートラルスイッチ／オイルレベルスイッチリード線はオイルストレーナカバー側面に沿わせる。
Ⓙ ワイヤハーネスの白テープをタンクフィッティング中心に合わせる。
Ⓚ ホーンは端子を車体内側に向けて組付ける。
Ⓛ スピードメータケーブルをケーブルホルダに通す。
Ⓜ ブレーキホース１とスピードメータケーブルをブレーキホース１のマーキングに合わせてワイヤガイドで固定する。
Ⓝ クランプは突起２つを出して固定すること。
Ⓞ エアクリーナケースドレンホース、フュエルタンクブリーザパイプ、フュエルタンクオーバフローパイプをクランプでブラケットに固定する。フュエルタンクブリーザパイプ、フュエルタンクオーバフローパイプは下方に引き出してたるみをなくすこと。

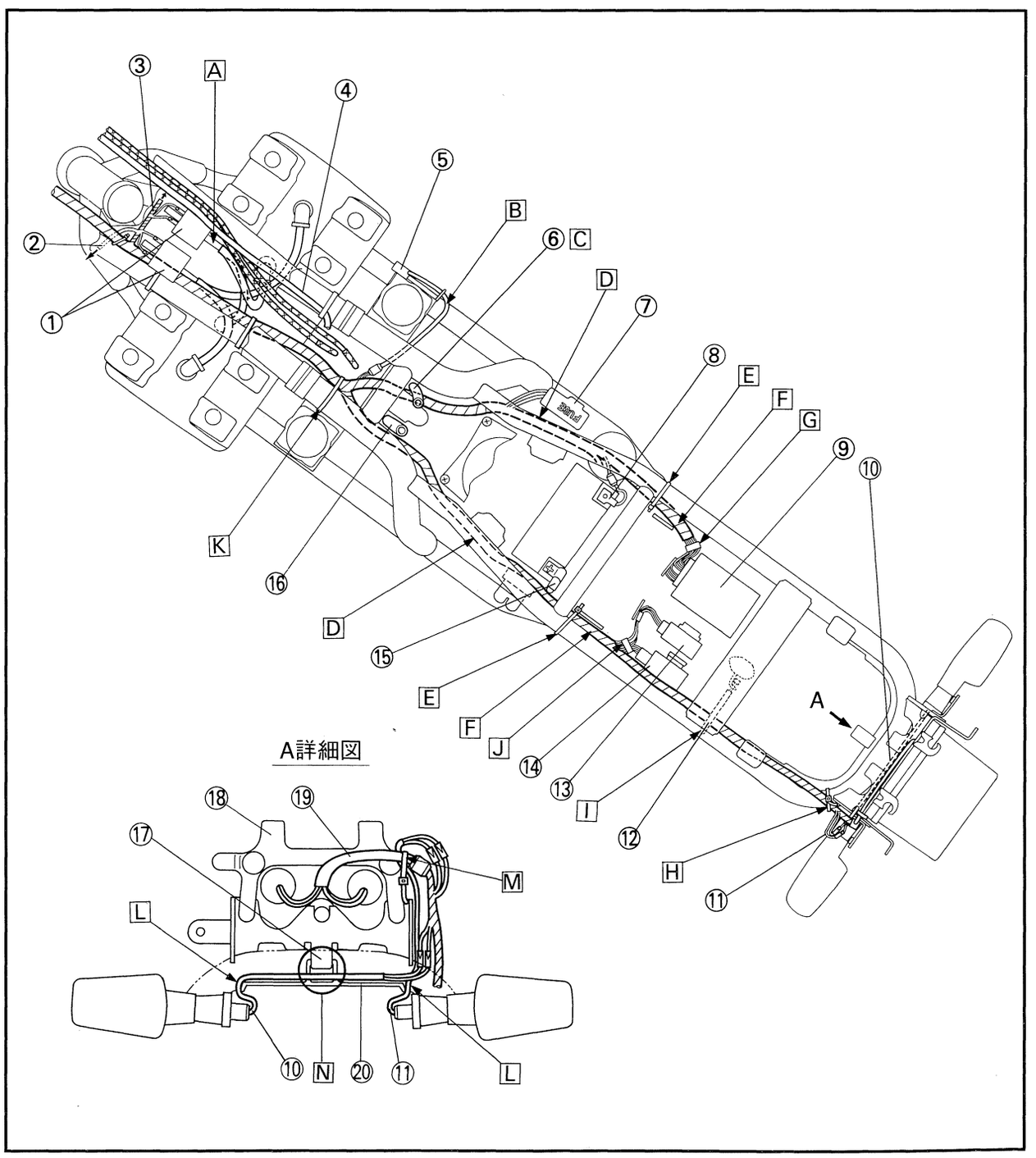


ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

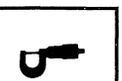
①イグニッションコイル
②ホーン(左)リード線
③ホーン(右)リード線
④スタータケーブル
⑤スロットルポジションセンサ
⑥フュエルタンクブリーザパイプ
⑦ヒューズボックス
(イグニッション、シグナル、ヘッドライト)
⑧バッテリ(−)リード線
⑨イグナイタユニット
⑩リヤフラッシャランプ(右)リード線
⑪リヤフラッシャランプ(左)リード線
⑫シートロックワイヤ
⑬フラッシャリレー
⑭スタータサーキットカットオフリレー
⑮バッテリ(+)リード線
⑯フュエルタンクオーバフローパイプ
⑰リヤフェンダブラケット
⑱リヤフェンダステー
⑲テール/ストップランプリード線
⑳マッドガード

Ⓐハイテンションコード1〜4は位置を間違えずに組み付けること。(左から1、2、3、4番)
ハイテンションコードが真横よりも後ろに向かって出るようにプラグキャップを組み付ける。

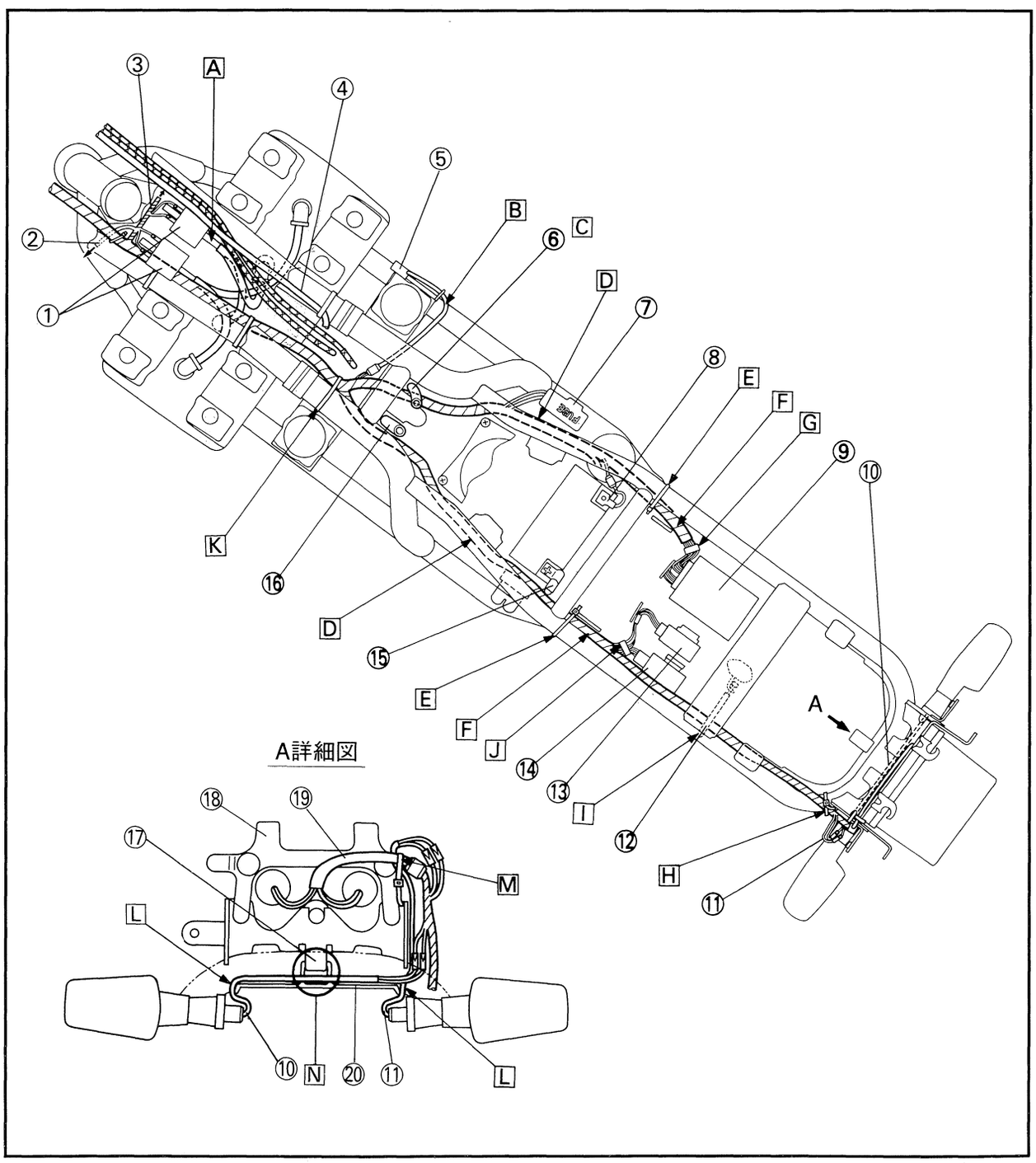
Ⓑスロットルポジションセンサリード線はキャブレタの後ろへ出して結線すること。
Ⓒフュエルタンクブリーザパイプはワイヤハーネスの外側を通すこと。
Ⓓワイヤハーネスはシートレール下を通すこと。
Ⓔワイヤハーネスをクランプでシートレールに固定する。クランプの先端はマッドガードとシートレールの間へ収めること。
Ⓕワイヤハーネスはマッドガードのリブとフレームの間を通す。
Ⓖイグナイタユニットリード線はマッドガードの爪の後ろを通し、クランプでマッドガードに固定する。



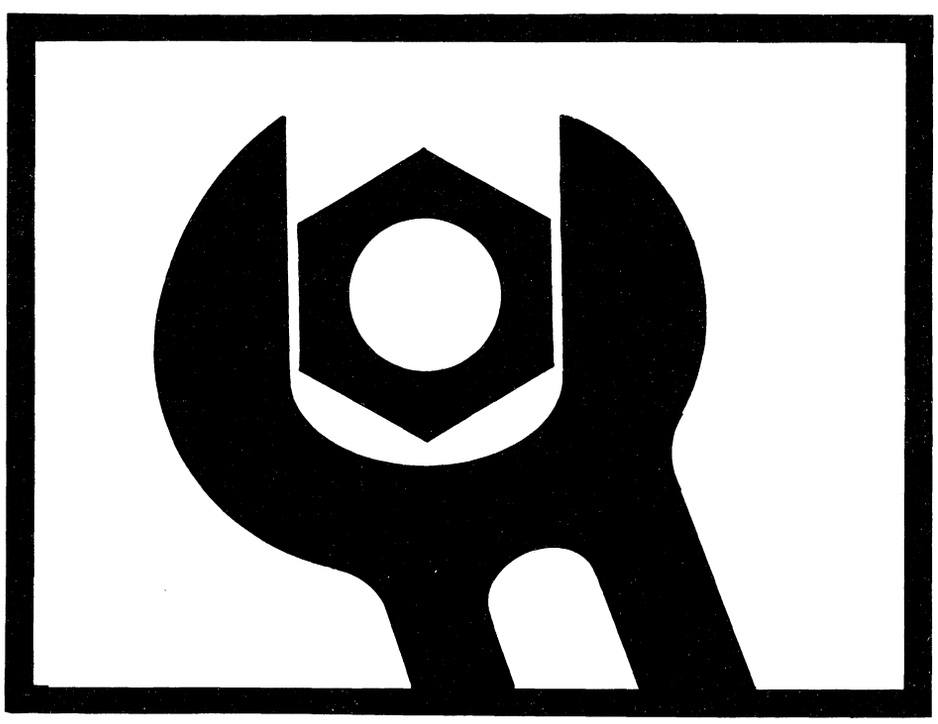
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

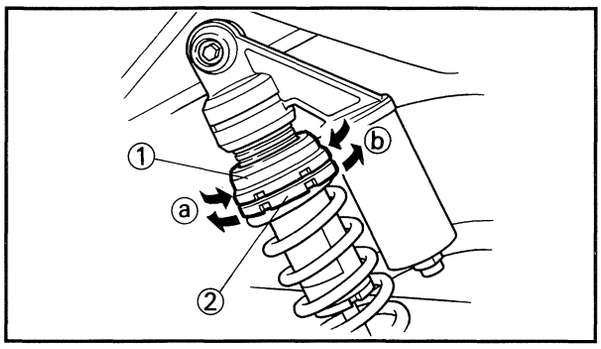


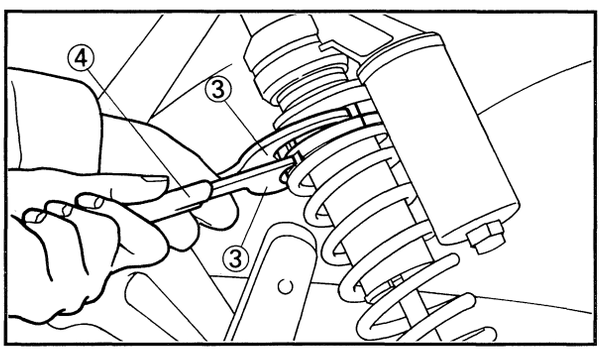
Ⓗワイヤハーネスをリヤフェンダブラケット付近でシートレールにクランプで固定する。クランプ先端は上に向ける。
Ⓘシートロックワイヤはワイヤハーネスの上を通す。
Ⓙフラッシャリレーリード線はマッドガードの爪の後ろを通し、スタータサーキットカットオフリレーリード線と一緒にクランプでマッドガードに固定する。
Ⓚワイヤハーネスをバンドでタンクレールに固定する。バンド先端は下に向ける。
Ⓛリヤフラッシャランプリード線はマッドガードの切り欠きを通す。
Ⓜテール／ストップランプリード線とリヤフラッシャランプ(左)リード線のプロテクタ部をバンドでリヤフェンダステーに固定する。バンド先端は下に向ける。
Ⓝリヤフラッシャランプ（右）リード線はリヤフェンダブラケットの前を通す。

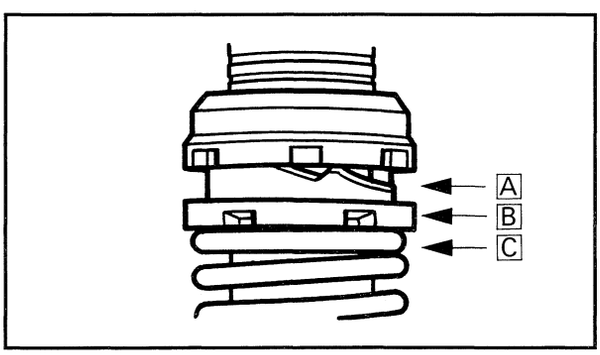


第３章
点検・調整編









車体

リヤクッション初期スプリング荷重の調整

〔XJR400R〕

1. 以下の調整をする。

- 初期スプリング荷重

  上側アジャスタリング①と下側アジャスタリング②を逆方向に同時に回し、下側アジャスタリングの位置を上下に移動させて初期スプリング荷重を調整する。

要　点

付属ツールのスペシャルレンチ③とエクステンション④を使用してアジャスタを回す。

アジャスタリング回転方向		下側アジャスタリング位置
ⓐ	上側右へ 下側左へ	上がる
ⓑ	上側右へ 下側左へ	下がる

下側アジャスタリング位置	スプリング硬さ
上A（標準位置）	軟らかい
中B	中間
下C	硬い

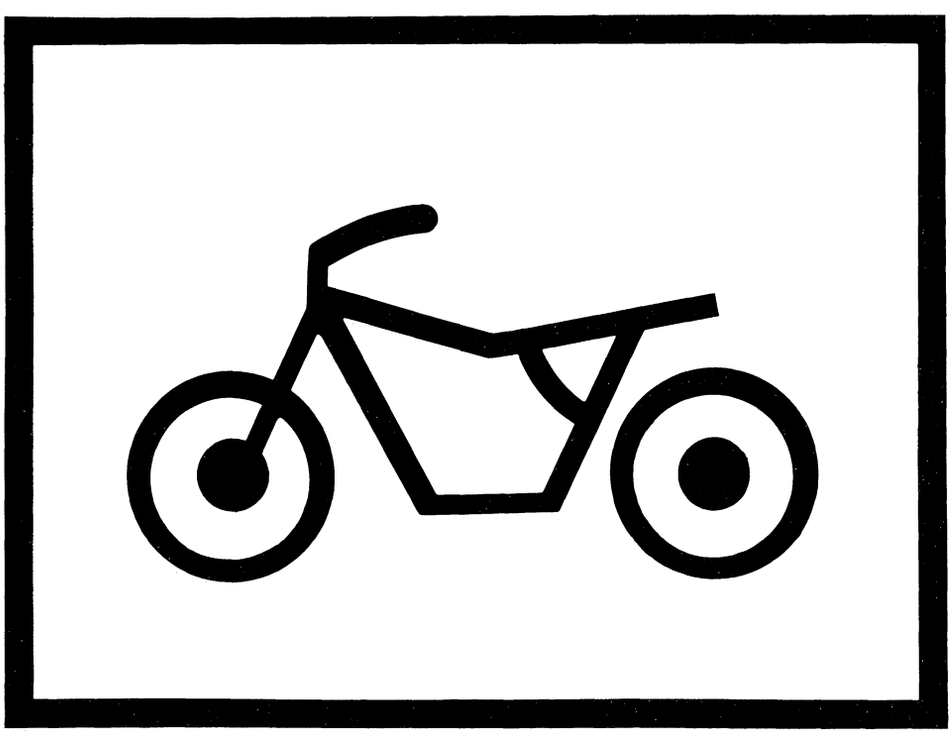
⚠注意

左右のリヤクッションのアジャスタの位置を同じにすること。

注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。

第４章
車体編

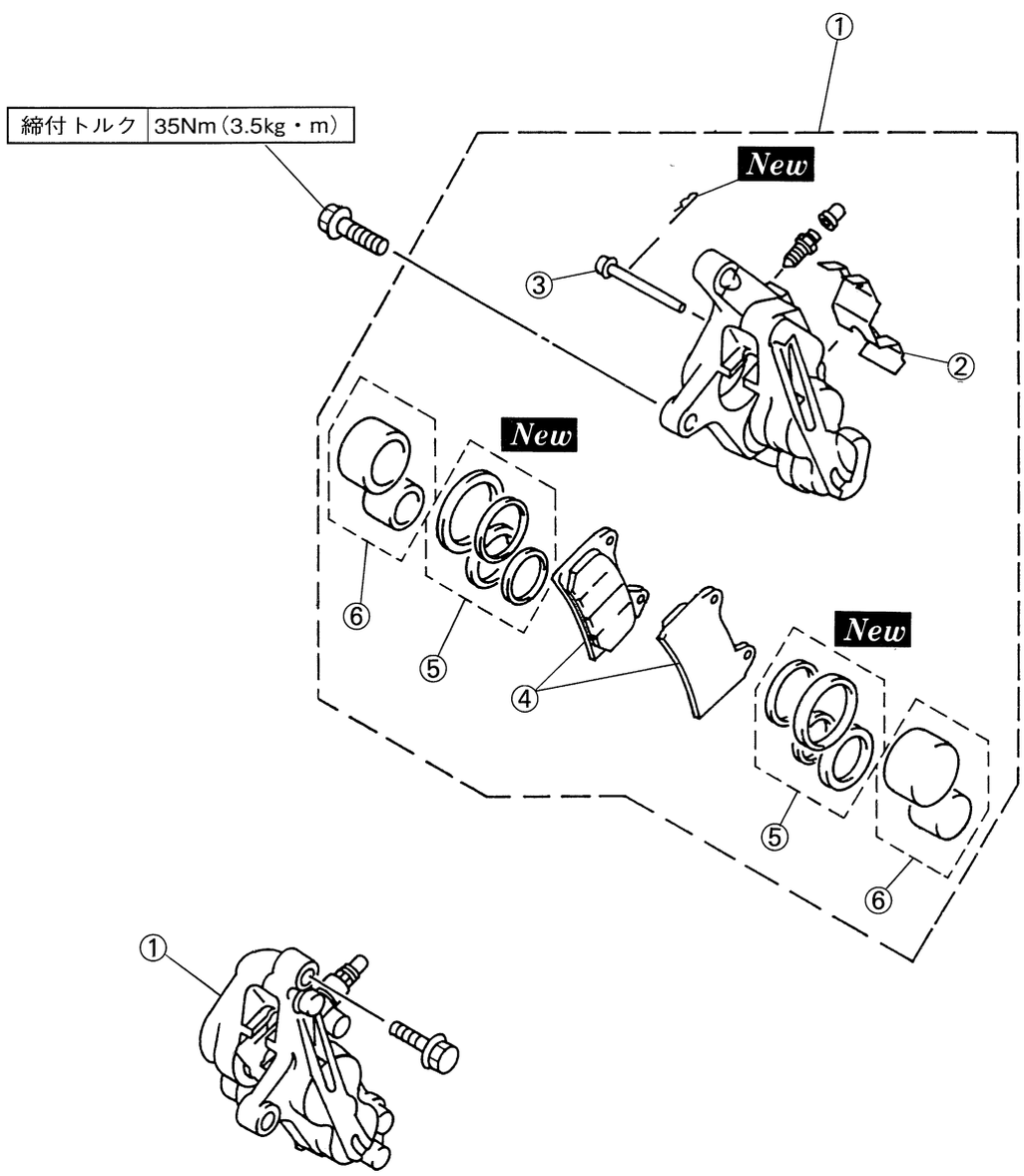


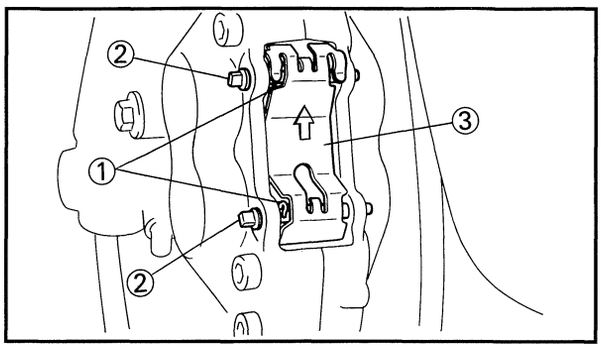
フロントブレーキ〔XJR400R〕

構成部品

フロントキャリパ
①キャリパAss'y
②パッドサポート
③パッドピン
④ブレーキパッド
⑤キャリパシールキット
⑥キャリパピストン

ブレーキパッドの摩耗限度	0.5mm
キャリパシールキットの交換	2年毎

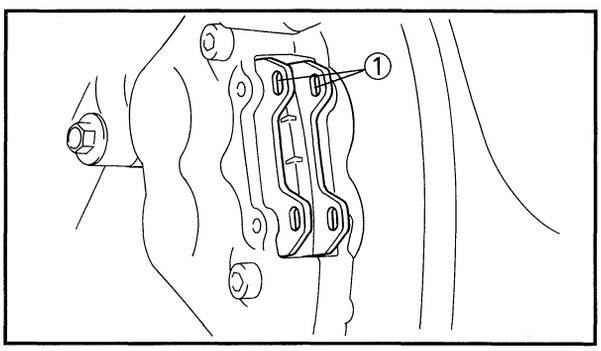




ブレーキパッドの交換

1. 以下の部品を取外す。
- クリップ①
  パッドピンをプライヤ等でまわし、クリップを取外しやすいように位置をかえる。

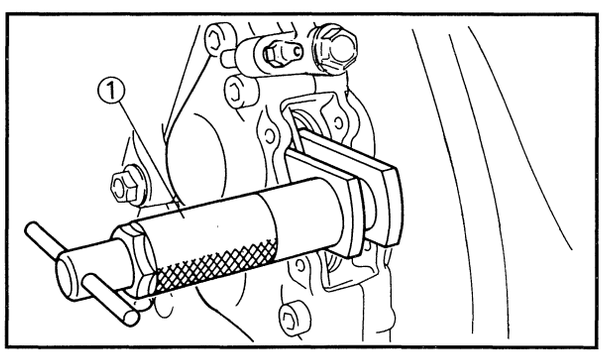
2. 以下の部品を取外す。
- パッドピン②
- パッドサポート③



3. 以下の部品を取外す。
- ブレーキパッド①

注 意

ブレーキパッド取外し中、ブレーキレバーを操作しないこと。

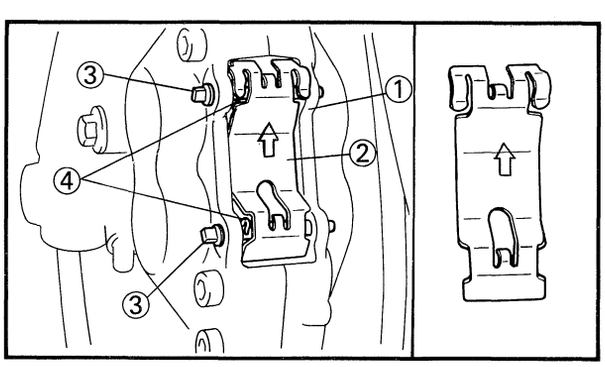


4. キャリパピストン押え（ヤマハ推奨品）①を使用してキャリパピストンを押し戻す。

注 意

- ドライバ等でピストンを押し戻さない事。
- キャリパピストンを押し戻すと、リザーバタンクの液面が上昇するので注意すること。

5. 以下の部品を組付ける。
- ブレーキパッド①
- パッドサポート②
- パッドピン③
- クリップ④

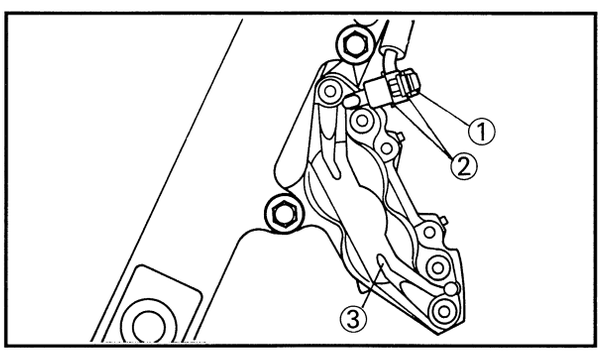


要 点

- パッドサポートは矢印を回転方向にして組付ける。
- クリップ組付後、クリップの頭部はパッドサポートの内側になるようパッドピンを回す。

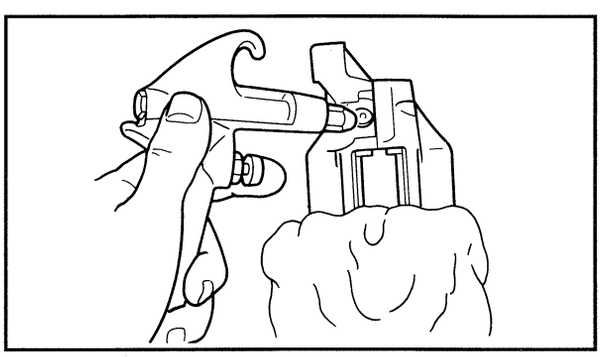
6. 以下の点検をする。
- ブレーキフルードの量
  （第3章「リザーバタンク液量の点検」 参照）
- ブレーキの効き具合

キャリパの取外し



1. 以下の部品を取外す。
- クリップ
- パッドピン
- パッドサポート
- ブレーキパッド
  （「ブレーキパッドの交換」参照）
2. ブレーキフルードを抜く。
3. 以下の部品を取外す。

フロントキャリパの分解



⚠注意

ここに挙げている項目以外のキャリパの分解は行わないこと。

1. 以下の部品を取外す。
- キャリパピストン

⚠注意

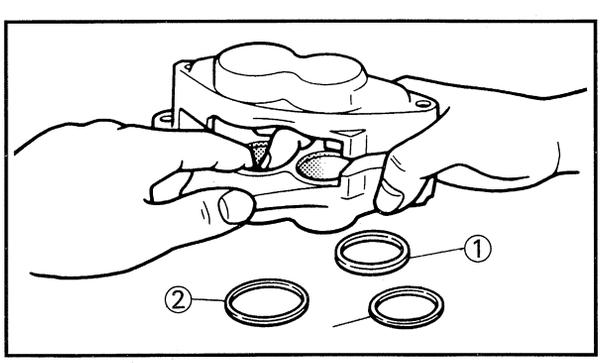
- 高圧のエアを使用したり、急激にエアを吹き込まず徐々にエアを吹き込むこと。
- キャリパの中に手を入れないこと。

片側のキャリパピストンをウエス等で飛び出さないように固定する。

キャリパをウエスでくるみ、取外し側のキャリパピストンを下向きにする。

低圧エアを徐々に吹き込み、片側ずつ取外す。

※点検、組立後残っている反対側のキャリパピストンを取外す。

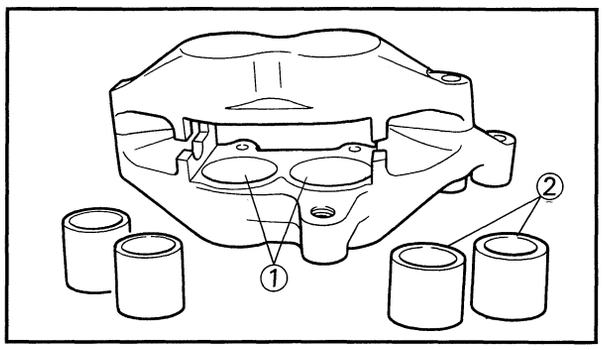


2. 以下の部品を取外す。
- ダストシール①
- ピストンシール②

指先で奥へ押し込むようにして取外す。

注 意

- ドライバ等を使用しないで必ず指で取外すこと。
- 取外したものは再使用しないこと。



キャリパの点検

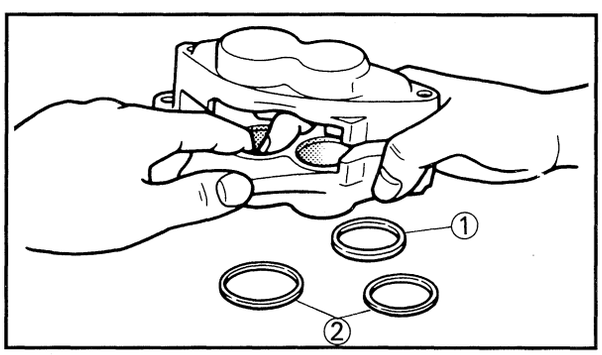
1. 以下の点検をする。
- キャリパシリンダ①
- キャリパピストン②

  条痕、摩擦痕→キャリパAss'y交換

キャリパの組立

1. キャリパ、キャリパシールキットをブレーキフルードで洗浄する。

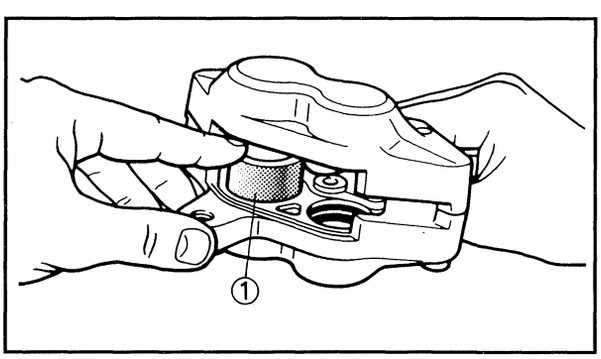
> **⚠注意**
> ブレーキフルード以外のもので洗浄しないこと。



2. 以下の部品を組付ける。
- ピストンシール①
- ダストシール②

  ヤマハ純正ブレーキフルードDOT＃4を塗布し、指先でねじれないように組付ける。

New	ピストンシール ダストシール



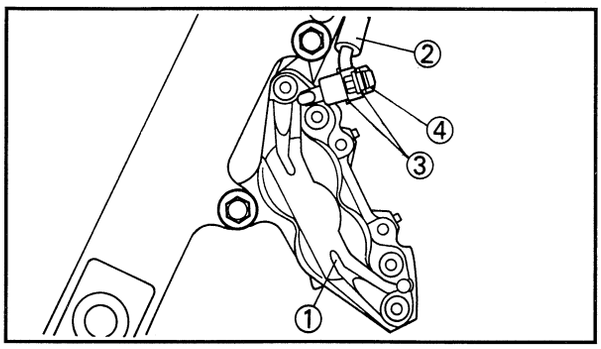
3. 以下の部品を組付ける。
- キャリパピストン①

  ヤマハ純正ブレーキフルードDOT＃4を外周面に塗布して組付ける。

> **注 意**
> - 無理な力を加えて組付けないこと。
> - キャリパピストンに損傷を与えないように組付けること。

4. 以下の部品を組付ける。
- ブレーキパッド
- パッドサポート
- パッドピン
- クリップ

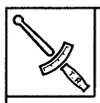
（「ブレーキパッドの交換」参照）



キャリパの組付け

1. 以下の部品を組付ける。

- キャリパ①
- ブレーキホース②
- プレートワッシャ③
- ユニオンボルト④



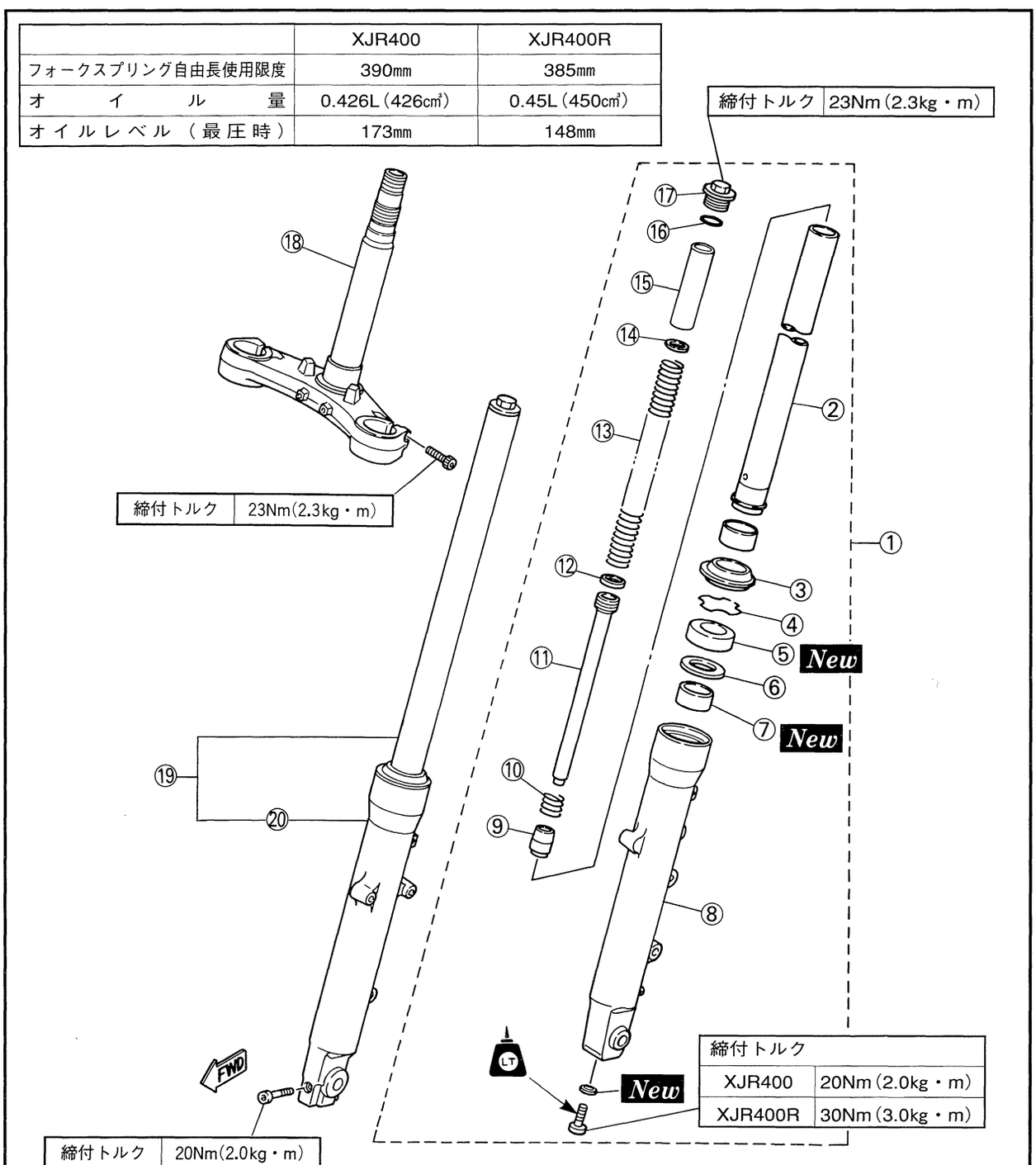
キャリパ
35Nm（3.5kg・m）
ユニオンボルト
26Nm（2.6kg・m）

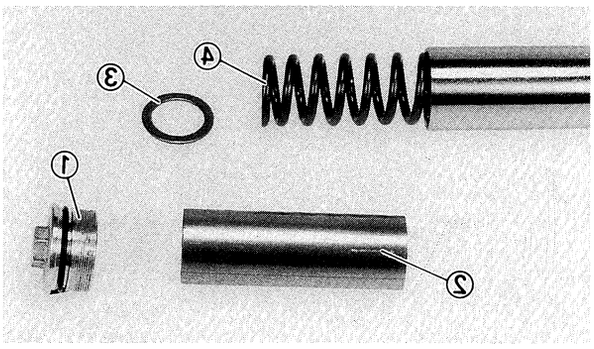
フロントフォーク

構成部品

①フロントフォークAss'y(左)
②インナチューブ
③ダストシール
④スナップリング
⑤オイルシール
⑥オイルシールワッシャ
⑦スライドメタル
⑧アウタチューブ1
⑨テーパスピンドル
⑩リバウンドスプリング
⑪フロントフォークシリンダComp
⑫ピストンリング
⑬フロントフォークスプリング
⑭スプリングアッパシート
⑮スペーサ
⑯Oリング
⑰キャップボルト
⑱アンダブラケットComp
⑲フロントフォークAss'y(右)
⑳アウタチューブ2

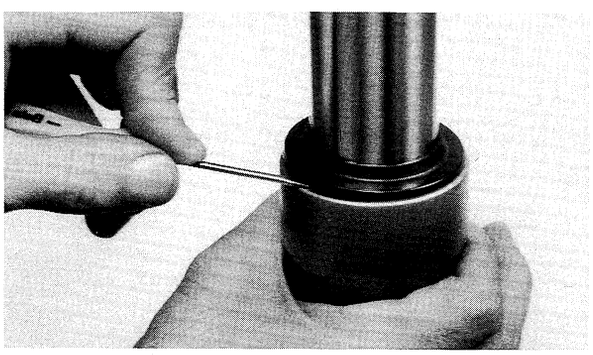
	XJR400	XJR400R
フォークスプリング自由長使用限度	390mm	385mm
オイル量	0.426L(426cm³)	0.45L(450cm³)
オイルレベル(最圧時)	173mm	148mm



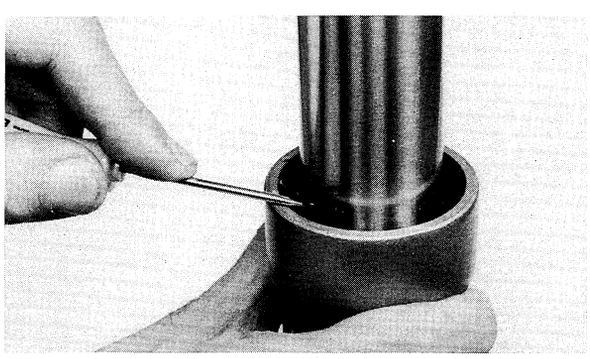


フロントフォークの分解

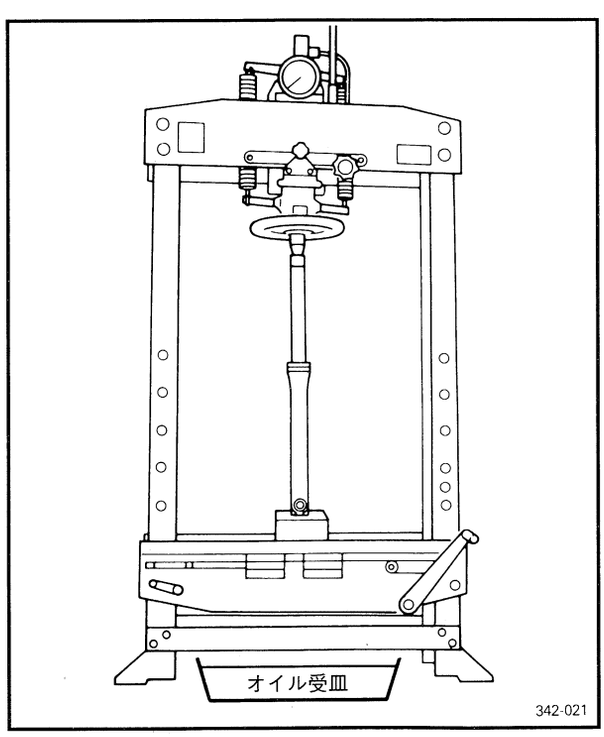
1. 以下の部品を取外す。
   - キャップボルト①
   - スペーサ②
   - スプリングアッパシート③
   - フォークスプリング④
2. フォークオイルを抜く。



3. 以下の部品を取外す。
   - ダストシール
     細い⊖ドライバ等を使用して取外す。



4. 以下の部品を取外す。
   - オイルシールストッパリング
     細い⊖ドライバ等を使用して取外す。



5. 以下の部品を組付ける。
   - キャップボルト
     インナチューブを一杯引き上げ、インナチューブ上端までオイルを注入して、キャップボルトを組付ける。

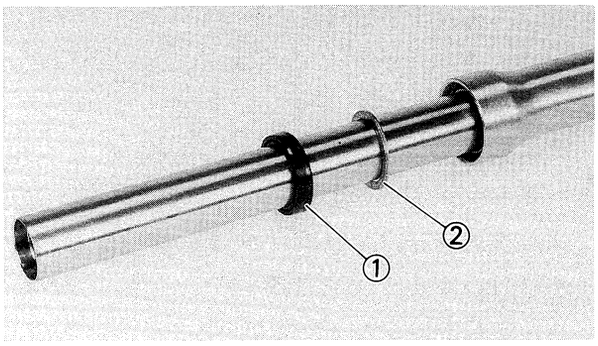
要 点

フォークスプリングは組付けない。

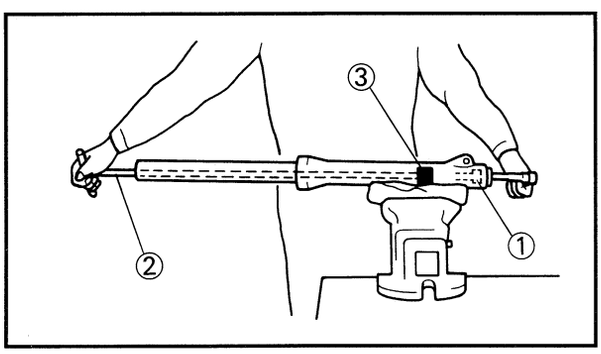
6. フロントフォークをプレスにセットし、ゆっくり加圧していくと、油圧によりオイルシールが抜ける。

注 意

- キャップボルトの頭をつぶさないように気をつけること。
- オイルシール外周とアウタチューブのすき間からオイルが漏れた時点で加圧を中止すること。
- プレス下部に受皿を置いて行なうこと。

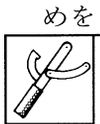


7. 以下の部品を取外す。
- オイルシール①
- オイルシールワッシャ②

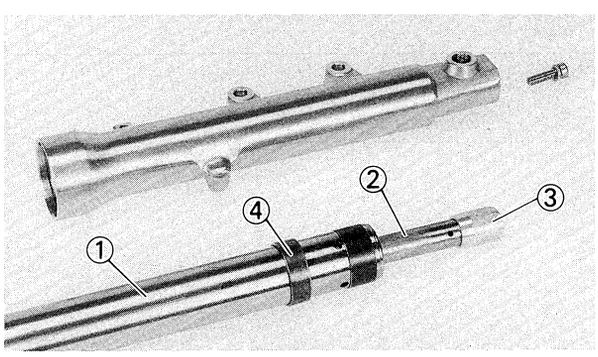


8. 以下の部品を取外す。
- ヘキサゴンボルト①

  Tハンドル②とホルダ③でシリンダの回り止めをしてボルトを取外す。

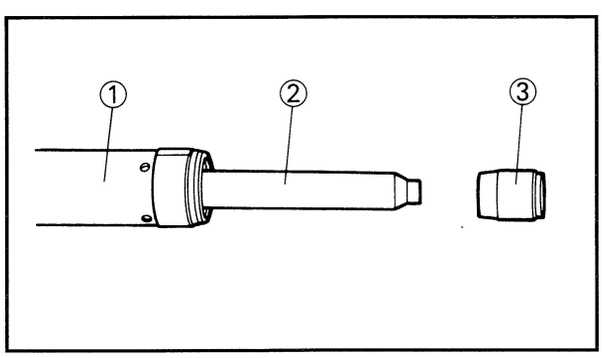


ホルダ
90890-01460〔XJR400〕
90890-01432〔XJR400R〕
Tハンドル
90890-01326



9. 以下の部品を取外す。
- インナチューブ①
- シリンダComp②
- テーパスピンドル③
- スライドメタル④

  インナチューブよりシリンダCompを取外す。



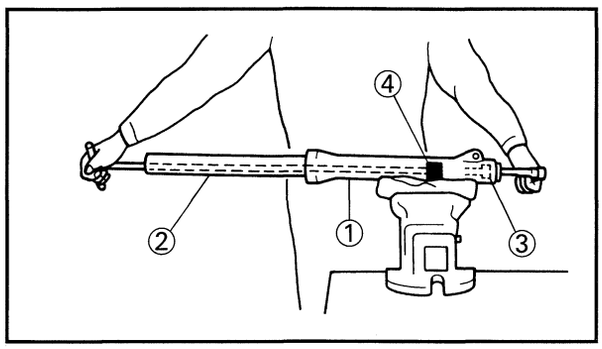
フロントフォークの組立

1. 以下の部品を組付ける。
- インナチューブ①
- シリンダComp②
- テーパスピンドル③

  インナチューブにシリンダCompを組付け、テーパスピンドルをシリンダComp先端部に確実に組付ける。

注 意

- インナチューブを垂直に立てて、シリンダCompを上から落して組付けると損傷するので、インナチューブを斜めにして組付けること。
- テーパスピンドルとシリンダCompの先端部の組付けが完全でない場合は締付時破損の原因となるので確実に組付けること。



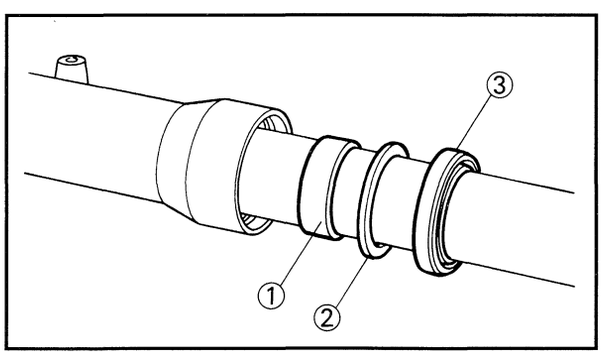
2. 以下の部品を組付ける。
- アウタチューブ①
- インナチューブ②
- ガスケット
- ヘキサゴンボルト③

アウタチューブにインナチューブをゆっくり組付け、ホルダ④を使用して、ヘキサゴンボルトを規定のトルクで締付ける。

New	ガスケット

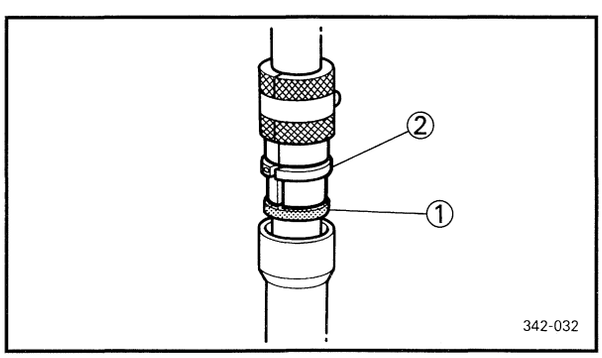
	ホルダ 90890-01460〔XJR400〕 90890-01432〔XJR400R〕 Tハンドル 90890-01326

LT	ヘキサゴンボルト
	インナチューブ締付（ヘキサゴンボルト） 20Nm（2.0kg・m）



3. 以下の部品を組付ける。
- スライドメタル①
- オイルシールワッシャ②
- オイルシール③

New	スライドメタル オイルシール



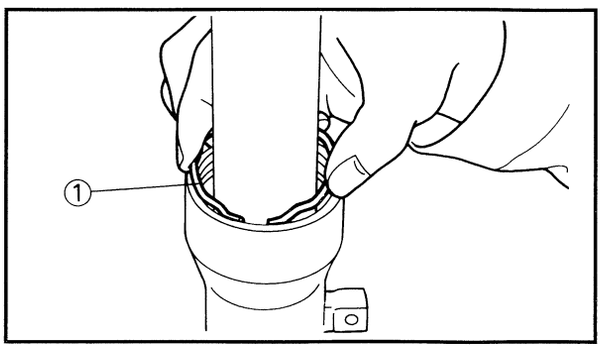
4. 以下の部品を組付ける。
- オイルシール①

フォークシールドライバ②を使用して、オイルシールストッパリング溝が完全に見えるまで打ち込む。

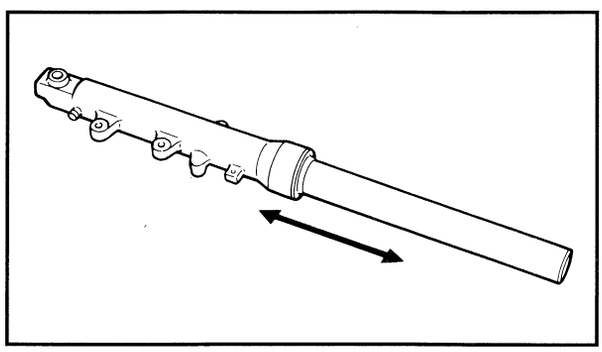
	フォークシールドライバ 90890-01442

要　点

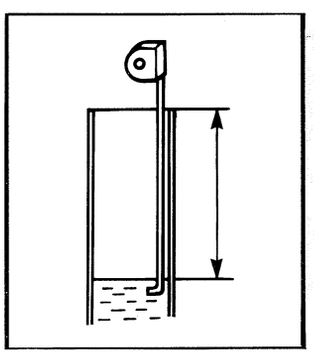
オイルシールに傷をつけない。

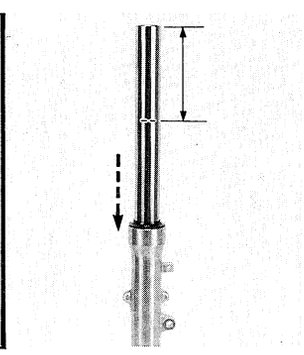


5. 以下の部品を組付ける。
- オイルシールストッパリング①
- ダストシール
  アウタチューブ溝に確実に組付ける。



6. 以下の点検をする。
- インナチューブの摺動
  スムーズに摺動しないもの→分解し再点検





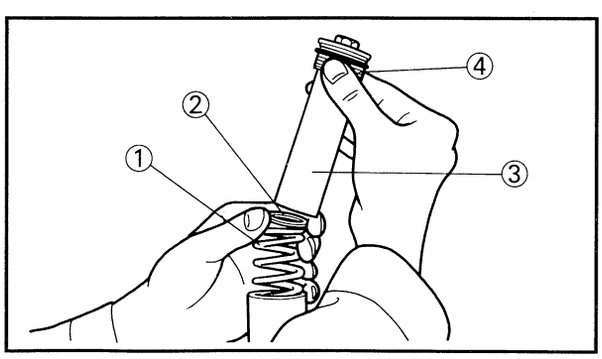
7. サスペンションオイルを規定量注入する。

オイル量 0.426L（426cm³）〔XJR400〕 0.45L（450cm³）〔XJR400R〕 推奨オイル ヤマハサスペンションオイルG10

〔参考〕
- オイルレベル
  フロントフォークを最圧した状態にし、インナチューブ上端面よりの高さを測定する。

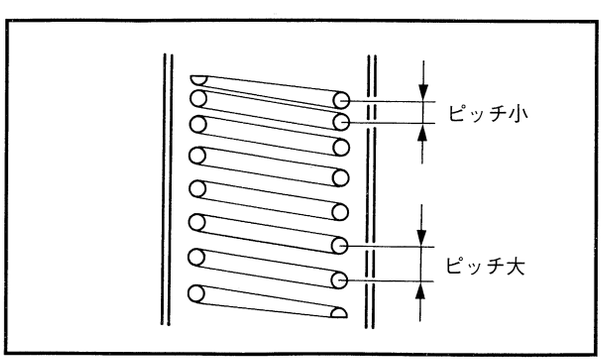
要　点
フロントフォークスプリングを外した状態で測定する。

オイルレベル（最圧時） 173mm（XJR400） 148mm（XJR400R）

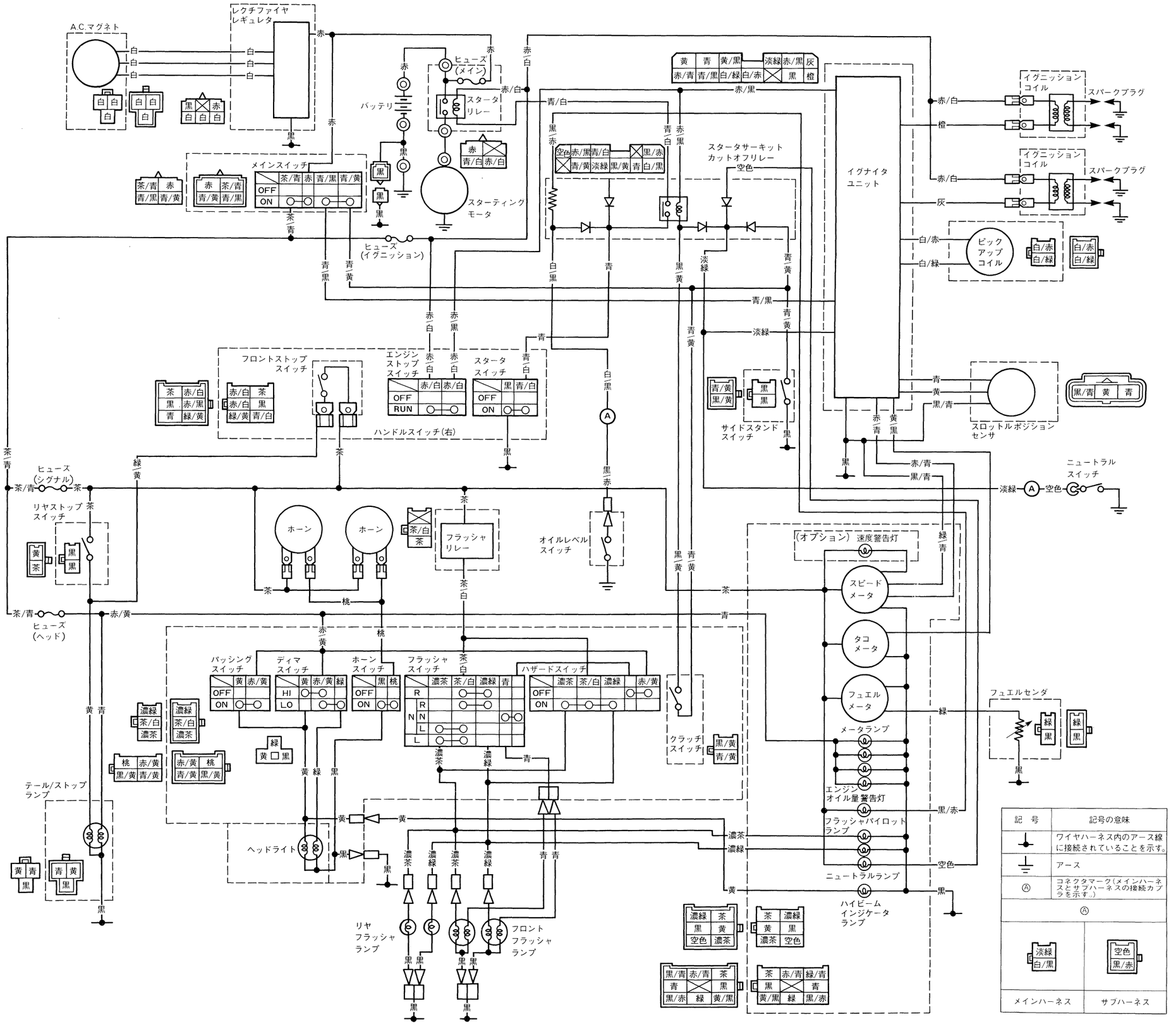


8. 以下の部品を組付ける。
- フォークスプリング①
- スプリングアッパシート②
- スペーサ③
- キャップボルト④

要　点
● フォークスプリングはバネピッチの小さい方を上側にして組付ける。 ● キャップボルトは仮締付する。



XJR400/400R 電装結線図



XJR400/400Rサービスマニュアル

1995年2月発行

不許複製

編集発行　ヤマハ発動機株式会社
サービス情報室

ご注文の際はQQS-CLT-011-4HM品番で
お申込みください。

QQS-CLT-011-4HM

4HM-28197-06

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社
〒438 静岡県磐田市新貝2500

再生紙を使用しています

573564-7

注文No.391255 9502-3.0× 1